

千葉大学 × 京葉銀行 eCOプロジェクト
CHIBA UNIVERSITY BANK

7色の虹を千葉から未来へ

3 年(2017~2019 年度)実施報告書



2020年3月16日

千葉大学環境 ISO 学生委員会

目次

0. はじめに	p.3
(1) プロジェクトの概要	
(2) プロジェクト発足共同記者会見と各年度の報告会	
(3) プロジェクトの3カ年の成果まとめ	
1. 京葉銀行による学生委員会の環境活動支援	p.6
(1) 国内外への学生派遣	
(2) 学生の環境活動支援	
2. 学生による「エコアクション 21」取得コンサルティング	p.16
(1) エコアクション 21 について	
(2) 本企画の概要	
(3) 進捗状況	
(4) 来年度の展望	
3. 学生発案の7つの環境貢献企画	p.19
(1) 千葉大生と考える環境ゼミナール	
(1)-2 ソーラーシェアリング(営農型発電)見学会	
(2) こどもエコまつり	
(3) 千産千消フェア～ちばを食べてエコしよう～	
(3)-2 千葉大学のギンナンを食べよう!	
(4) Chiba クリーンアクション	
(5) 都市鉱山発掘プロジェクト	
(5)-2 映画祭 Chiba 2019	
(6) エコ発信局	
(7) 京葉銀行エコチャレンジ	
4. プロジェクトの広報内容と結果について	p.44
5. まとめと来年の展望	p.52
(1) 総括	
(2) プロジェクトリーダーより	

参考資料 「1. 京葉銀行による学生委員会の活動支援」 各学生による報告書

0. はじめに

(1) プロジェクトの概要

<発足経緯>

国立大学法人千葉大学と株式会社京葉銀行は、2012年に包括的連携協力に関する協定を締結し、地域に様々な付加価値の提供と、地域社会、経済、産業の発展と活性化に積極的に取り組んできた。千葉大学は2005年に国際規格のISO14001を取得し、学生主体の環境マネジメントシステムを実施してきた。「千葉大学環境 ISO 学生委員会」は発足から今年度で16年目を迎え、千葉大学の環境マネジメントシステムの運用を担うとともに、大学内と地域の環境意識の向上を促進するため、様々な環境活動を行ってきた。

京葉銀行では地元企業として地域のよりよい未来のために、これまでも地域貢献や社会福祉活動、文化・スポーツ振興等に取り組んできた。環境面においてもお客さまの環境意識の高まりを受け、定期預金の満期案内を環境保全に変える「エコプロジェクト」や「ちば環境再生基金」への寄付活動、環境配慮型商品のご案内等のお客さま参加型の環境活動を実施しており、今後更なる環境への取り組みを模索している。

また、2015年に国連で採択された持続可能な開発目標(SDGs)は世界共通語となっている。京葉銀行と千葉大学が協同することで、産学連携というパートナーシップのもと、気候変動をはじめとする地球環境問題の解決に向けたSDGsの達成に寄与していくことができると考えている。

このような背景があり、2017年に「地域の環境負荷削減と環境意識向上に貢献したい」という両者の想いから本プロジェクトが発足した。毎年度、プロジェクトの内容を見直し、企画の発展を検討したり、新しい企画を考案したりするなど、プロジェクトのパワーアップを図ってきた。

<名称>

7色の虹を千葉から未来へ ～千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト～

<目的>

環境活動促進 + 地方創生 + 学生の社会勉強 → 地域活性・環境への貢献

- ① 県民の皆さまや京葉銀行の役職員、取引先企業、千葉大生に対する環境意識の啓発活動
- ② ①の活動による地域社会の活性化と環境負荷削減への貢献
- ③ 京葉銀行の役職員や多様な主体と協同することによる学生の社会勉強の機会創出

<名称とロゴに込めた想い>

千葉大学と京葉銀行が連携して、様々な環境活動を行うことで、千葉県から未来の地球に貢献するという想いがこもっている。その活動の主体として、ロゴの中心には千葉大学環境 ISO 学生委員会のキャラクターである「いそちゃん」がデザインされている。デザインは学生委員会の学生が行った。



<内容>

① 京葉銀行による学生委員会の環境活動支援

国内外の環境系のシンポジウムや大会等で、千葉大学の学生による先進的な環境への取り組みやSDGsの取り組みを発信していく。これにより、サステナブルキャンパスの推進に貢献するとともに、学生にとってはプレゼンテーション経験や他大学との交流ができる機会となる。京葉銀行は学生派遣の旅費等の資金を提供するほか、企業が持つ知見やノウハウを活かしアドバイスするなど学生を支援する。

② 学生による「エコアクション 21」取得コンサルティング

企業が環境に配慮した事業活動を推進することは、地域の環境負荷削減や環境意識の向上につながることから、千葉県内の企業のエコアクション 21(以下 EA21)取得を促進する。京葉銀行が取引先企業を紹介し、学生がEA21のコンサルティングや環境レポート作成補助を行う。学生にとってはコンサルティングを通じた環境教育と企業とのかかわりによる社会経験となる。また、学生によるコンサルティング活動は、環境 ISO 学生委員会がつくる「NPO 法人千葉大学環境 ISO 学生委員会」の実績となる。

③ 学生発案の 7 つの環境貢献企画

地域の方々や京葉銀行の関係者の方々に対して、環境意識の啓発につながるイベント等の活動を行う。京葉銀行は主に個々の企画の開催段取りを行い、学生はコンテンツ作成・当日運営を担当する。学生にとっては普段の活動ではあまり実現できない場で活動することができるとともに、環境教育や実務教育の機会となる。

(2) プロジェクト発足共同記者会見と各年度の報告会

<発足会見>

2017 年 7 月 21 日 13:00～14:00 に、京葉銀行 千葉みなと本部 2 階ホールにて、プロジェクト発足を発表する記者会見を行った。京葉銀行行員 3 名、千葉大学学生 13 名、教職員 2 名が出席し、メディア 11 社が取材に訪れた。



左:フォトセッション 右:記者会見の様子

<各年度報告会>

○2017 年度

2018 年 3 月 19 日に、京葉銀行千葉みなと本部で報告会が記者会見形式で行われ、熊谷俊行取締役頭取と徳久剛史学長に対して、学生 5 名から具体的なプロジェクトの実施・進捗・成果報告を行った。

○2018 年度

2019 年 3 月 7 日に千葉大学において学生 5 名から徳久学長へ報告会を行い、3 月 15 日に京葉銀行において同じく学生 5 名から熊谷頭取への報告会を行った。



▲左から 2017 年度報告会、2018 年度の学長への報告会、頭取への報告会

(3) プロジェクトの 3 力年の成果まとめ

3 年間で様々な活動や企画を展開し、**10 個**の SDGs の目標に寄与することができた。



また、**延べ 400 人以上**の学生が関わることができ、**3,000 人以上**の市民等に対してエコ意識を啓発することができた。
 本プロジェクトに係るプレスリリースは**32 本**、メディア報道は**44 本**であった。
 さらに、本プロジェクトの紹介を含む環境 ISO 学生委員会の広報活動(イベントでのブース出展や事例発表等)は**33 回**、
 本プロジェクトも含む形で評価された表彰は**7 件**であった。

① 京葉銀行による学生委員会の環境活動支援

本プロジェクトへの寄付金 630 万円

主な使途: 計 13 カ所(国内 7 カ所、海外 6 カ所)、延べ 48 名の学生を派遣・・・約 437 万円
 国内だけでなく、海外の大学関係者への普及を行うことができた。

② 学生による「エコアクション 21」取得コンサルティング

1 年半かけて 1 社に対し、コンサルティングを行い、認証取得申請に至った。
 コンサルティングを最後まで実施できたことで学生委員会にノウハウを蓄積することができ、今後の展開につなげることができた。

③ 学生発案の 7 つの環境貢献企画

毎年 7 つの企画を実施し、**延べ 350 人以上**の学生が参加することができた。
 企業関係者、子ども、中学生、高校生、大学生、大人市民、京葉銀行員など、**3,000 人以上**に対し、様々な企画を通じてエコ意識を啓発することができた。

1. 京葉銀行による学生委員会の環境活動支援



<概要>

京葉銀行の寄付により、学生委員会の環境活動を支援する。主に、旅費等を支援し、学生委員会のメンバーが国内外の環境系の会議や交流会等に参加する。

<目的>

国内外の環境系の会議や大会等で、千葉大学の学生主体の先進的な環境への取り組みを発信していくことによって、サステナブルキャンパスの推進に貢献する。また、プレゼンテーション経験や他大学との交流は学生にとって貴重な機会となるほか、他団体等との交流を経て活動のさらなるレベルアップに資する経験・知識を得る。

<寄付金額>

3カ年合計 630 万円（2017 年度 200 万円、2018 年度 230 万円、2019 年度 200 万円）

(1) 国内外への学生派遣

3 年間で計 13 カ所（国内 7 カ所、海外 6 カ所）、延べ 48 名の学生を派遣することができた。

2019 年度は 3 カ所に学生を派遣した。タイ・マヒドン大学への派遣は、環境 ISO 学生委員会とマヒドン大学(MIUC)で構築したオリジナルプログラムであったが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

日程	会議・大会名	開催場所	学生数	費用
2017 年度				約 192 万
6 月 26～28 日	The International Sustainable Campus Network (ISCN) 2017 年次大会	カナダ・ブリティッシュコロンビア大学	3 名	約 103 万
9 月 13～14 日	第 11 回環境マネジメント全国学生大会	岩手大学	10 名	約 39 万
11 月 16～18 日	サステナブルキャンパス推進協議会 2017 年次大会	愛媛大学	4 名	約 19 万
12 月 9～10 日	The 3rd Asian Conference Sustainability (ACCS)	京都大学	3 名	約 12 万
3 月 9～11 日	第 22 回四国青年環境系合宿四国ギャザリング	愛媛県国立大洲青少年交流の家	3 名	約 19 万
2018 年度				約 188 万
5 月 14～18 日	International Green Gown Awards 授賞式	フランス・マルセイユ	2 名	約 65 万
6 月 18～22 日	Environmental Association for Universities and Colleges(EAUC) 2018年次大会	イギリス・キール大学	2 名	約 69 万
9 月 6～7 日	第 12 回環境マネジメント全国学生大会	信州大学	6 名	約 15 万
11 月 17～18 日	サステナブルキャンパス推進協議会 2018 年次大会	岩手大学	3 名	約 13 万
11 月 30～12 月 2 日	The 4th Asian Conference Sustainability (ACCS)	韓国・延世大学	3 名	約 26 万
2019 年度				約 57 万
6 月 11～14 日	Asian Sustainable Campus Network 2019 年次大会	中国・同済大学	3 名	約 39 万
10 月 17～19 日	2019 Gyeonggi-do Green Campus International Forum	韓国・聖潔大学	1 名	約 5 万
11 月 23 日	サステナブルキャンパス推進協議会 2019 年次大会	名古屋大学	5 名	約 13 万
2 月 26～3 月 1 日	Sustainable Campus Students Program 2020	タイ・マヒドン大学		中止
合計			48 名	約 437 万

① Asian Sustainable Campus Network(ASCN)2019 年次大会 報告

<大会概要>

- ・名称: アジア・サステイナブルキャンパスネットワーク 2019 年次大会
- ・日時: 2019 年 6 月 13 日～6 月 14 日
- ・場所: 同済大学(中国上海市)
- ・内容: 中国、韓国、タイ、日本の大学が集まって、持続可能な大学の取り組みに関する事例発表と意見交換を行った。

<参加学生>

井上美咲(園芸学部・2 年)、洪羽星(園芸学部・2 年)、目黒貴大(法政経学部・2 年)

<学生の参加状況>

○事例集執筆

大会開催前に「Green education & Student Activities」についての事例集の執筆を行った。委員会の概要、学生が携わる環境マネジメントシステムの概要、そして班活動や NPO としての活動の内容を盛り込んだ。

○当日の活動

1 日目は ISCES での講演を聴講、2 日目には ASCN で活動発表を行った。

活動発表では「Sustainability Activities Conducted by Students in Cooperation with Companies(学生が企業と連携して行う持続可能な活動)」と題した 20 分程度のプレゼンテーションを行い、質疑に回答した。千葉大学が 16 年継続してきた学生主体の環境マネジメントシステムや学生委員会の活動を説明した後、企業と連携した活動として、「千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト」等の 4 つについて紹介し、学生が企業と連携した活動をすることで、学生・大学・企業の三者にそれぞれメリットが生じることについて述べた。

(右写真: 発表の様子と使用したスライド)



○表彰

学生セッションの発表は審査員による審査が行われ、審査の結果、千葉大学が「最優秀学生活動賞: Best Student Activity Award」を受賞した。(右写真: 賞状) 審査員の方々には、200 人という大人数の団体にも関わらず、多くの活動がそれぞれ対立することなく成立しており、その範囲も多岐に渡るという点を評価していただいた。



※ASCN について

日本においてサステイナブルキャンパスを推進している大学のネットワークであるサステイナブルキャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)では、アジア各国での取組に関する事例発表と意見交換の場として、KAGCI(韓国)、CGUN(中国)を中心に「サステイナブルキャンパス・アジア国際会議(ACCS: Asian Conference on Campus Sustainability)」を、2015 年に第 1 回会議が韓国で、2016 年は中国、2017 年は京都、2018 年は韓国で開催した。その枠組みに SUN(タイ)を加え、4 か国のネットワークを、「ASCN: Asian Sustainable Campus Network」として、2019 年 6 月に「ASCN 2019 年次大会」を開催することになった。

② 2019 Gyeonggi-do Green Campus International Forum 報告

<大会概要>

- ・名称: 京畿道グリーンキャンパス国際フォーラム 2019
- ・日時: 2019 年 10 月 17 日～10 月 18 日
- ・場所: 聖潔大学(韓国・京畿道)
- ・内容: 日本、韓国、モンゴルの大学の学生・教職員が集い、それぞれの環境問題に対する取り組みについて発表した。「No Plastic A Better WORLD!」のスローガンのもと、主にプラスチックごみ問題についての取り組みや知識の共有を行った。

<参加学生>

佐藤朱里(文学部・1年)

<学生の参加状況>

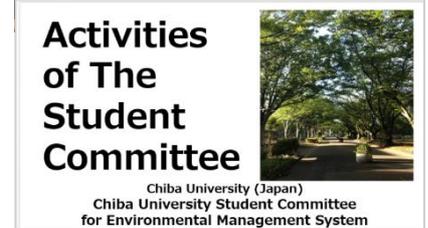
○当日の活動

1 日目は基調講演の聴講とプレゼンテーション、2 日目は大学見学を行った。

セッション 1「Presentation of Green Campus Cases abroad」では岡山特任助教が「Student-led EMS called “Chiba University Method” and Tackling Reducing Plastic Consumption」と題した 30 分間のプレゼンを行い、学生主体の環境マネジメントシステムの活動内容や成果、京葉銀行をはじめとする企業との連携プロジェクト、学生委員会が実施した 2 つのプラスチック削減の取り組みについて紹介した。

セッション 2「General Forum」は学生セッションで、佐藤が「Activities of The Student Committee」と題した 10 分間のプレゼンを行った(写真 1 枚目)。学生委員会が行っている環境活動について SDGs をからめる形で発表した。発表が終わった後に質疑応答があり、韓国の学生やモンゴルの教職員から積極的な質問があった。

セッションの最後には発表学生によるパネルディスカッション(写真 2 枚目)が行われ、会場からも沢山の質問があった。



○フィードバック

10 月 29 日での「環境マネジメントシステム実習 I B」(学生委員会の 1 年生約 80 名が全員受講している授業)で今回の報告を行った。また、韓国の学生が SDGs を強く意識し、プラスチックごみ問題に積極的に取り組んでいることを受け、授業では SDGs についての講義と、SDGs の理解を深めるカードゲームとプラスチックごみ削減に関するワークショップを行った。



③ サステイナブルキャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN) 2019 年次大会 報告

<大会概要>

- ・日時:2019 年 11 月 23 日
- ・場所:名古屋大学東山キャンパス
- ・内容:全国の様々な大学が集い、テーマに沿った事例の発表を行った。

<参加学生>

八代慈瑛(法政経学部・3 年)、杉浦匡哉(工学部・2 年)、土屋健太(法政経学部・1 年)、武村有紗(園芸学部・1 年)、中島由貴(園芸学部・1 年)

<学生の参加状況>

① 全体シンポジウム

基調講演や表彰等が行われた。

また、八代が今年度より設立された「環境マネジメント全国学生協議会」について紹介した。(右写真)



② 分科会

建築・設備部門、大学運営・地域連携部門、学生生活部門の 3 つのセッションにおいて、様々な大学が事例発表をした。

千葉大学からは、杉浦と土屋がセッション 1 にて「キャンパス内における歩車分離実証実験プロジェクト」について事例発表した(右写真)。また、武村と中島がセッション 3 にて「学生主体の EMS 活動とプラスチックストロー廃止実証実験」について事例発表した。



③ 受賞者発表会・全体討論

受賞者のプレゼンテーションや、全体討論が行われた。

※CAS-Net JAPAN について

サステイナブルキャンパス協議会(CAS-Net JAPAN)は、2013年に設立し毎年、年次大会と総会を開催している。目的は、国内の高等教育機関、行政機関、法人において、サステイナブルキャンパスの構築の取り組みを推進し加速させ、かつ、諸外国の活動的なネットワークを連携し、我が国における持続可能な環境循環型社会にキャンパスをモデルとして貢献することである。

④ Sustainable Campus Students Program 2020 報告

学生委員会の海外派遣を通じて、世界的なサステナブルキャンパスの推進に努めることを目的に、本プロジェクトの一環として、2019 年度に新設されたプログラムである。今年度はまず、千葉大学のサテライトキャンパスがあるマヒドン大学において、当委員会の活動紹介やワークショップを通じて、現地の学生・教職員との交流を図る予定であった。
しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、渡航直前にキャンセルせざるを得なくなった。

<概要>

日時:2020 年 2 月 26 日～3 月 1 日 (3 泊 5 日・機内 1 泊)

場所:タイ・マヒドン大学インターナショナルカレッジ(MIUC)

内容:①MIUC の教職員に対して、千葉大学の取り組みに関するプレゼンを行う

②MIUC の学生と、英語でワークショップを行う

③MIUC で日本語を学んでいる学生と、日本語でワークショップを行う

④MIUC キャンパス内の視察

⑤タイ文化への理解を深めるためバンコク市内の視察

参加:学生委員 8 名、引率教員は織田雄一(千葉大学国際未来教育基幹 教授)

<目的>

- ・千葉大学および環境 ISO 学生委員会の取り組みについて海外の大学に紹介することで、世界的なサステナブルキャンパスの普及に貢献する
- ・海外の大学に行くこと、英語でプレゼンすること、海外の学生と交流することで、学生自身の貴重な経験とする
- ・派遣先で得た知識や経験を持ち帰り、学生委員会にフィードバックするとともに、今後の活動に活かしていく

<スケジュール>

1 日目(2 月 26 日(水))

タイ航空 641 便 9:45 成田発 → 15:15 バンコク着 マヒドン大学に移動・宿泊

2 日目(2 月 27 日(木))

午前:①MIUC 省エネ委員会(教職員組織)との交流

ISO 学生のプレゼンテーション、MIUC 省エネ委員会の活動、グリーンキャンパスの紹介

午後:②MIUC の学生との交流(言語は英語)

ISO 学生のプレゼンテーション、環境に関するワークショップ、

④キャンパスツアー(環境、省エネ関連)

夕方:大学近辺で学生同士一緒に夕食

3 日目(2 月 28 日(金))

午前:③MIUC 日本語副専攻学生等との交流(言語はやさしい日本語+英語)

ISO 学生のプレゼンテーション、環境に関するワークショップ

午後:合同ランチ後にフィールドトリップ

4 日目(2 月 29 日(土))

午前:振り返りミーティング等

午後:⑤タイ文化への理解を深めるためバンコク市内の視察

タイ航空 640 便 22:30 バンコク発 → 6:20(翌日)成田着

<参加予定学生と役割>

メンバー	メイン担当	サブ担当	ワークショップチーム
中川あかり (法政経学部・2年)	教職員向けプレゼンテーション	リーダー	発電方法
大橋京平 (理学部・2年)		持参資料準備	環境教育
石川菜々子 (園芸学部・2年)	日本語ワークショップ企画	持参資料準備	発電方法
佐藤朱里 (文学部・1年)		視察計画	プラスチックごみ
茂呂真歩 (法政経学部・1年)	学生向けプレゼンテーション	名刺作成	プラスチックごみ
松林奈緒 (国際教養学部・1年)		持参物準備	省エネ対策
西村泉美 (法政経学部・1年)	英語ワークショップ企画	持参物準備	環境教育
谷口明香里 (園芸学部・1年)		視察計画	省エネ対策

※ワークショップでは4つのグループに分かれ、千葉大生が各グループのファシリテーターとなり、それぞれのテーマに沿って、日本とタイと世界の現状をベースに、両国の学生が意見を出し合うディスカッション形式で、英語ワークショップに関しては最後に「取り組む宣言」という形でグループごとに発表する予定であった。

<準備と中止の経緯>

2019年	
4月26日	本プログラムの企画原案を作成
5月17日	京葉銀行に訪問しご相談させていただき承諾を得る
6月5日	中谷筆頭理事名義の公文書(※1)を発行し、マヒドン大学に正式に依頼
6月25～26日	織田教授がマヒドン大学を訪問し、プログラムを提案。実施の了解を取り付ける。
7月上旬	本プログラムに関して学生委員会向けの説明会を開催(全3回)
7月17日	応募締切 (18名が応募)
7月下旬	応募者面接 (8名を選抜)
8月7日	第1回メンバー打ち合わせ (役割分担決め、準備スケジュールの確認等)
夏休み～12月	各チームでプレゼン資料の作成、ワークショップの内容について 織田教授や岡山助教と適宜打ち合わせをしながら準備を進める
12月18～19日	織田教授がマヒドン大学で先方と詳細について打ち合わせ
2020年	
1月14日	第2回メンバー打ち合わせ (ワークショップのテーマとペア決め)
～	各ペアでワークショップの内容やワークシートの作成
1月30日	織田教授がマヒドン大学で先方と最終打ち合わせ
2月13日	留学生を相手にワークショップのリハーサル
～	各ペアでワークシートの修正作業
2月19日	学生たちに保護者を含めた渡航意思確認を行う
2月23日	タイ保健省がコロナウイルス対策についての通知を発出。学校や大学に対して、感染国(中国、韓国、日本など)から入国した学生に対し、登校前に14日間の自宅待機をさせる旨の指示。 ＝短期プログラムは現実的に実施不可能
2月24日	マヒドン大学に確認し、正式に中止を決定。中止に関する公文書(※2)

※1 中谷理事名義の実施依頼文書



※2 中止に関するマヒドン大学の公文書



<2月13日のリハーサルの様子>

・10:30～12:30

日本語ワークショップのリハーサル

日本語が話せる留学生 3 名に対してそれぞれのテーマのワークショップを実施
ワークショップの進め方や日本語の話し方について学ぶことができた。



・13:00～15:00

英語ワークショップのリハーサル

日本語が話せない留学生 2 名に対してワークショップを実施。意思疎通のコツやワークに必要な事前情報などを学んだ。



・15:00～16:30

ワークショップの進め方やワークシートの改善点について話し合った

<学生リーダーのコメント: 中川あかり>

ワークショップやプレゼンはもちろん、視察、名刺や先方へのお土産といった細やかな準備に至るまで、みんなが本当にたくさんの努力を夏からして参りました。それらの努力がマヒドン大への派遣という結果で完全に実ると信じ、それぞれが自分の中の優先順位を変えて取り組んでくれていたように思います。それゆえ、中止になってしまい、率直に言って本当に残念です。残念という言葉では表せないくらい残念でなりません。事情が事情だけに、世の中どうしようも無いことであるのだと痛感しました。実現は出来なかったものの、私たちの準備自体は完成に近付いていましたし、そこまでの経験は各人において大きな意味のあるものになったと思います。準備をサポートくださった先生方はもちろん、このチャンスをくださった京葉銀行の方々には御礼申し上げます。またこのメンバーで行ける日がくればと願っています。

(2) 学生の環境活動支援

「京葉銀行による学生委員会の環境活動支援」による寄付金は、学生を国内外に派遣するだけでなく、学生委員会の環境活動の資金や、様々な活動を実施する際の交通費にも充ててさせていただいた。主な支援内容について紹介する。

① Chiba Winter Fes 報告

<概要>

千葉大学環境 ISO 学生委員会主催で、地域住民及び千葉大生を対象にした環境啓発イベントを開催した。

<目的>

本イベントは、主に千葉大学の学生及び千葉大学周辺に住んでいる地域住民を対象に、環境に対する関心を高め、どのように実践できるか考えてもらうことや地域を活性化することを目的に開催した。

<成果報告>

来場者数 :3カ年合計 約 2,100 人 (2017 年度 1,500 人、2018 年度 600 人、2019 年度中止)

参加学生数:3カ年合計 約 250 人 (2017 年度 68 人、2018 年度 83 人、2019 年度 95 人)

<2017 年度 実施報告>

日時:2018 年 2 月 12 日 10:00~17:00

会場:千葉大学西千葉キャンパス

内容:

- ・千葉テレビ「ジャルっと！爆ハリ！」の公開収録
- ・ハイブリッド車を電源としたエコステージでの演奏
- ・燃料電池車の展示・紹介
- ・企業・NPO によるパネル展示
- ・千葉大学の環境への取り組み紹介
- ・地元の飲食店による出張販売
- ・フリーマーケット・地産地消の特産品販売

(※京葉銀行とのプロジェクトの一環である「千産千消フェア」を実施)

結果:約 1,500 名が来場し、地域住民や千葉大生の環境に関する意識を高め、地域を盛り上げることができた。



<2018 年度 実施報告>

日時:2019 年 2 月 11 日 10:00~16:00

会場:千葉大学西千葉キャンパス

内容:

- ・元プロ野球選手 里崎智也さんによる特別講演
- ・ハイブリッド車を電源としたエコステージでの演奏
- ・企業・NPO による身近な環境への取り組み紹介
- ・フリーマーケット
- ・千葉大学の環境への取り組み紹介
- ・地元の飲食店による出張販売
- ・地産地消の特産品販売



(※京葉銀行とのプロジェクトの一環である「千産千消フェア」を実施)

・千葉大学でとれた銀杏の無料頒布

(※京葉銀行とのプロジェクトの一環である「千産千消フェア」を実施)

結果: 早朝の積雪による影響や出店取りやめ等、当日不慮の事態があったが、約 600 名の来場者数を記録し、イベントは無事終了した。

<2019 年度 実施報告>

新型コロナウイルスの影響で 2 月 20 日に中止を決定した。

日時: 2020 年 3 月 1 日 10:00~16:00 予定

場所: 千葉大学西千葉キャンパス

内容:

① ゲスト

吉本興業所属 インパルス堤下: 1 時間程度の講演

吉本興業所属 コロコロチキチキペッパーズ: ネタステージ

② ステージ

吉本興業所属の芸人「もぐもぐピーナッツ」の司会のもと、全 11 サークルのパフォーマンスを行う。

③ 箸づくり【新企画】

使い捨ての割りばしを使うのではなく何度もリユースして使ってほしいと願いを込めて「箸づくり体験」を行う。

箸のケースも同時に作ることで、持ち運びやすくしている。当日の飲食ブースでも使用してもらう。

④ 飲食

近隣飲食店ブースと、地産地消の特産品販売(千産千消フェア)を行う。

⑤ 子供向け企画

小学校低学年程度までの親子連れが対象。「射的」「魚釣りゲーム」の二つのエコについて学びながら遊べるゲームとお土産として持って帰ってもらうための塗り絵を行う。

⑥ フリーマーケット

⑦ 企業・NPO のパネル展示

⑧ 千葉大学環境 ISO 学生委員会のパネル展示

⑨ モバイルラリー(昨年度までは紙にスタンプを押してもらう方式だったが、今年度はチラシがペーパーレスを意識して電子化した関係で来場者のスマートフォンにて行う。)



② 第13回 環境マネジメント全国学生大会 報告

<大会概要>

・日時:2019年9月10日～11日

・場所:千葉大学西千葉キャンパス

・内容:毎年開催されている大会だが、2019年度は千葉大学が開催校となり、環境ISO学生委員会が主催した。「SDGsの残り10年の今求められることを変えることのできる未来～私たちはどう取り組むか～」のテーマに基づいて各大学との交流が行われた。

※寄付金はパンフレット(右写真)の印刷に約3万円使用した。



<参加団体>

全国11大学14団体(学生108人)

<内容>

① 各団体活動報告

普段行っている活動の内容やその成果について、スライドを使用して発表した。質疑応答も行われ、各団体はお互いに刺激を与える有意義な時間となった。

② 環境マネジメント全国学生協議会設立総会

SDGsの達成と、学生の活動を通じた持続可能な社会の構築に貢献することを目的に、本全国大会の開催円滑化を担い、学生間の交流促進、海外交流の窓口となる活動を行う学生協議会が発足し、その設立総会を行った。

③ アイスブレイク

「THE SDGs Action cardgame X クロス」というSDGsカードゲームを行った。SDGsについて深く考えるとともに、大学の枠を超えた交流ができた。

④ キャンパスツアー

環境関連の取り組みが行われている箇所をまわるキャンパスツアーを行い、太陽光発電システムや堆肥ピット、サイエンスプロムナードなどを見学した。

⑤ 分科会

SDGsの169のターゲットに着目した7つの課題について問題解決案の企画を考える分科会を行った。スライドを使った全体共有では、現実的なものや独創的なものもあり、SDGsに対し具体的に向き合う精神を高めあうことができた。



※環境マネジメント全国学生大会とは

環境マネジメントシステムの運用や学内外においてさまざまな環境活動に取り組む大学生が集い、互いの活動報告や分科会での意見・情報交換をすることで、それぞれが課題を発見し、新たな活動の可能性を見出すとともに、学生間の交流を深めていくことにより、互いの価値観を共有して、今後の活動の幅を広げることを目的として、2007年から年1回、各大学の持ち回り主催で行われている大会。

2. 学生による「エコアクション 21」取得コンサルティング



(1) エコアクション 21 について

エコアクション 21(以下 EA21)は、平成 8 年に環境省が策定したガイドラインである。このガイドラインの運用によって、環境・エネルギーに配慮した組織づくりを進めることができる。主に中小企業を対象にしているため、費用・手続き面で ISO 取得に難がある企業でも取り組み、確実な効果を期待することができる。



【参考】ISO14001 と EA21 の主な違いは以下の通りである。

	ISO14001	EA21
規格の策定	国際標準化機構(ISO)	環境省
規格の目的	環境負荷の削減	環境負荷の削減
登録機関	日本適合性認定協会	エコアクション 21 事務局(中央事務局)
要求事項項目	18 個	12 個 + 1 個(環境経営レポート)
内部監査	あり	なし(従業員数 100 名以上だとあり)
情報公開	特に規定なし	環境経営レポートの公表
審査・認定費用	100 万程度	20 万程度
認知度	国際的に高い	国際的に低い

<取り組み方>

ガイドラインに従って 14 の要求事項を満たすことが軸となっている。これによって自動的に PDCA サイクルが回るようになり、継続的な環境負荷削減が見込める。

Check(点検)の段階で、EA21 の運用と結果をまとめた環境活動レポートを作成することが義務付けられている。

<認証・取得>

- ① 3 か月以上の環境経営システム運用
- ② 各種データ・書類の管理・提出
- ③ 環境活動レポートの公表

の 3 点を満たした上で、派遣された審査人の審査を通過すると、認証・取得となる。

<EA21 の運営体制>

中央事務局と各地にある地域事務局が協力して審査人の擁立や認証・取得制度の維持を担っている



▲ 認証・取得制度の運用体制 (エコアクション 21 HP より <http://ea21.jp/aim/>)

(2) 本企画の概要

<概要>

京葉銀行が取引先企業を紹介し、学生が EA21 のコンサルティングや環境レポート作成補助を行う。

<目的>

千葉県内の企業の EA21 取得を促進することで、地域の環境負荷削減や環境意識の向上に貢献する。
また、コンサルティングを通じて学生委員会が培ってきた環境マネジメント運用のノウハウを生かし、地域に寄与する。

<内容>

・勉強会の実施(訪問形式・全 5 回)

企業に訪問し、環境マネジメント運用ノウハウをもとに適切なコンサルティングを行う。

・環境活動レポート作成支援

取得・認証に必要な環境活動レポートの作成支援。環境報告書作成から得た知見が活用できる。

<実施体制>

本企画は、EA21 中央事務局と地域事務局・千葉環境財団の協力のもとで実施している。取得企業が EA21 事務局に支払う審査費用の一部をコンサルティング費用として「NPO 法人千葉大学環境 ISO 学生委員会」※が受け取る。学生委員会が NPO 法人としての事業実績を積むための支援にもなっている。

※学生委員会は千葉大学の組織の1つとしてだけでなく、NPO 法人格を取得し、学内で得た知識やノウハウを地域に還元する活動を行っている。理事長以下役員すべて学生が務め、主に環境教育事業、里山保全事業、環境活動推進事業の3つを行っているが、常に新しい取り組みを模索している。



(3) 進捗状況

全 5 回の予定であったコンサルティングは、事情により 8 回行った。

2 年かけて株式会社弘報社に対してコンサルティングを実施し、2019 年 12 月に審査に申請。現在結果待ち。

日付	実施内容
2017 年	
1 月下旬	EA21 コンサルティング計画発足、EA21 中央事務局の方と相談
2 月下旬	EA21 地域事務局 千葉環境財団に連絡
3 月 3 日	EA21 地域事務局 千葉環境財団に訪問
6 月 9 日	京葉銀行に EA21 コンサルティングについてのご説明、eco プロジェクトの一環として進めていくことが決定
9 月	コンサルティングの相手企業(株式会社 弘報社印刷)が決定
10 月 19 日	弘報社印刷を訪問
10 月 30 日	弘報社印刷に見積書を提出
2018 年	
2 月下旬	弘報社印刷から「3 月上旬の役員会で実施確認を行う」との連絡 (4/1 に株式会社弘報社に社名変更)

7月27日	第1回コンサルティング実施（コンサルティングの概要説明及び要求事項1～4の説明）
8月25日	第2回コンサルティング実施（要求事項5～7の説明）
10月21日	第3回コンサルティング実施（要求事項8～11の説明）
2019年	
1月20日	第4回コンサルティング実施（要求事項12～14の説明）
2月24日	第5回コンサルティング実施（運用に向けての最終確認）
6月28日	第6回コンサルティング実施（運用に向けての再調整環境経営レポートの相談）
9月～11月	試行期間実施
10月5日	第7回コンサルティング実施（運用に向けた最終調整・未完成書類の確認）
11月23日	第8回コンサルティング実施（作成資料の確認・申請手続きの説明）
12月11日	EA21に審査申請



▲コンサルティングの様子(左:2018年度 右:2019年度)

(4) 来年度の展望

弘報社でのコンサルティングを経験したことで、学生委員会に一連のノウハウができた。

実際に担当した学生が卒業する前に、次の企業に対するコンサルティングを開始し、ノウハウの引き継ぎを行いたい。

3. 学生発案の7つの環境貢献企画

<概要>

当委員会のメンバーが、活動の中から得た経験や知見をもとに企画を立案し、幅広い層に対して環境負荷削減・意識向上を呼びかける。例年の7つの企画の枠組みを受け継ぎつつ、新たに4つの企画を提案した。

企画の実施にあたっては、主に学生委員会が具体的な計画や当日の主な運営を行い、京葉銀行には関係先との交渉や運営の補助などをしていただくという役割分担になっている。

<目的>

地域住民、京葉銀行関係者、千葉大生などを対象として、環境意識の向上を目的とした啓発活動を行うことにより、地域の環境負荷削減と地域活性化を目指す。また、学生にとっては各企画の運営を行うこと自体が環境教育や実務教育の機会となる。

<3年間の企画推移>

企画	2017	2018	2019	延べ参加人数		
				学生	市民	行員
(1) 千葉大生と考える環境ゼミナール 	●	●	中止	12	98	3
(1)-2 ソーラーシェアリング(営農型発電)見学会 			●	7	9	5
(2) こどもエコまつり 	●	●	●	64	485	12
(3) 千産千消フェア～ちばを食べてエコしよう～ 	●	●	中止	10	2100	9
(3)-2 千葉大学のギンナンを食べよう！ 		●		41	上に含む	5
(4) Chiba クリーンアクション 		●	●	119	173	20
(5) 都市鉱山発掘プロジェクト 	●	●		13	カウント不可	
(5)-2 映画祭 Chiba 2019 			●	21	129	2
(6) エコ発信局 	●	●	●	48	∞	10
(7) 京葉銀行エコチャレンジ 	●	●	●	25	-	50

<2019年度に充実させた内容>

今年度はどの企画も充実させることができた。特に以下の企画では、新たな取り組みに挑戦することができた。

- (1)-2 昨年度企画していた「営農型発電見学会」を実際に行うことができた。
- (2) 「こどもエコまつり」では、来場者に古着を持ってきてもらい、エコバッグに作り替える企画を新たに行った。
- (5)-2 「映画祭 Chiba 2019」は今年度からの新企画であり、新たな形での環境教育を行うことができた。
- (6) 「エコ発信局」では、京葉銀行広報グループに広報の仕方を直接教えていただいたり、佐原に実際に赴き取材をして、リーフレットを作成するという新しい活動を行うことができた。
- (7) 「京葉銀行エコチャレンジ」では、昨年度から実施店舗を大きく増やし、横展開した。

(1) 千葉大生とともに考える環境ゼミナール



<概要>

京葉銀行の取引先企業、環境に関心のある企業などを対象に、千葉大学の事例と、環境配慮の知識などについて発信した。京葉銀行が機会を提供し、学生が講師を務めた。

<目的>

企業が環境への取り組みを強化することは地域社会、ひいては地球環境への好影響につながる。本ゼミナールをそのきっかけとする。

<成果報告>

千葉大学の環境不可軽減に関する取り組みの紹介やノウハウの伝達を京葉銀行が主催する講演会の中のプログラムとして、年1回実施してきた。千葉県内の多くの中小企業に対して環境意識の啓発を行うことができた。

・参加した延べ人数 学生数:12名、行員:3名、受講生(企業関係者):98名

<2017年度実施状況>

京葉銀行主催の『企業を変える人材活用 千葉県プロフェッショナル人材戦略拠点セミナー』において、セミナーを受講する中小企業経営者等に対し、学生が30分間講演した。

・日時:2017年11月15日 14:00~16:30 (学生講演時間16:00~16:30)

・場所:オークラ千葉ホテル「ウィンザールーム」

・内容:

「オフィスエコのススメ」～千葉大学における環境負荷・コスト削減の事例～

I. 千葉大学の環境への取り組み・学生委員会の活動とその特徴

II. PDCAサイクルと学生の関与

III. オフィスにおけるエコアクション

・関係者:学生3名、行員1名、(受講生)中小企業経営者等:74名

・結果:千葉大学における環境啓発ではうちわやポスター、ステッカーを紹介した。また京葉銀行エコチャレンジの内容を交え、企業での環境への配慮について理解を深めてもらうことができた。



▲左:講演会の様子 中央:学生よる説明の様子 右:講演の案内

<2018年度実施状況>

京葉銀行主催の『アルファバンクの後継者塾』(第3期)において、塾生に対し、学生委員会が30分間講演した。

・日時:2019年1月11日 13:30~18:00 (学生講演時間13:30~14:00)

・場所:京葉銀行本店3階セミナールーム

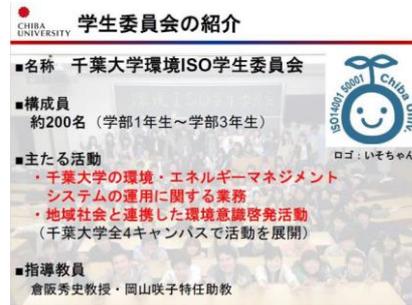
・内容:「オフィスエコのススメ」～千葉大学における環境負荷低減と産学連携活動～

I. 千葉大学との環境への取り組み～学生委員会の活動紹介～

II. 学生委員会と企業連携

Ⅲ. オフィスにおけるエコアクション

- ・関係者: 学生3名、行員2名、(受講生) 中小企業若手社員等: 24名(23社)
- ・結果: 後継者塾に参加した方々に環境や産学連携への理解を深め、会社経営に役立ててもらうとともに、学生にとっては、プレゼンテーションの経験や企業経営者との交流の機会を得ることができた。



▲左: 講演会の様子 中央: 使用したパワーポイント 右: 後継者塾の案内

<2019 年度実施状況>

新型コロナウイルスの影響で中止となった。

2018 年度に引き続き、京葉銀行主催の『アルファバンクの後継者塾』に内で実施する。学生による千葉大学での取り組みの紹介を中心としたプレゼンテーションから、実際に受講生に取り組んでもらう参加型での企画を検討した。具体的には、2020 年 3 月と 10 月ごろの 2 回にわたって「千葉大生と考える環境ゼミナール」を実施し、第 1 回のゼミナールで簡単な環境負荷軽減につながる目標とその達成のための具体的手段を検討していただき、第 2 回のゼミナールでその達成状況(成果)を確認するというものであった。

○第 1 回千葉大生と考える環境ゼミナール

- ・日時: 2020 年 3 月 13 日 13:00~14:00
- ・場所: 京葉銀行本店 3 階セミナールーム
- ・内容: I. 千葉大学における環境への取り組み・PDCA サイクルの紹介
II. 環境負荷軽減目標の作成
III. 環境負荷軽減目標の発表

○第 2 回千葉大生と考える環境ゼミナール

- ・日時: 2020 年 10 月ごろ
- ・内容: 「第 1 回千葉大生と考える環境ゼミナール」で作成した環境負荷軽減目標の達成状況(成果)の確認
なお、詳細な内容は 2020 年度のプロジェクト内で検討予定である。

<企画の感想>

学生:「私たちの活動を授業・講師という責任ある立場で対外的に説明するためにプレゼン準備をしたことで、単に活動の内容把握に留まらない活動のブラッシュアップに繋がる見地が養うことができた。また、千葉大学の取り組みを一般企業に応用するためにどうするかを考えることで、企業での環境負荷軽減の取り組みについて理解を深めることができた。中止になったのは残念であったが、今回の企画で学んだことを何らかの形で実施することを目標にして、今後の活動につなげて行きたいと思う。」

<来年度の目標>

中止になってしまった回を来年度中に実施できればと考えている。

(1)-2 ソーラーシェアリング(営農型発電)見学会



<概要>

京葉銀行と取引のある農業関係者等と千葉大学の学生を対象に、農業と太陽光発電を同時に行う新しい環境・ビジネスモデルである「ソーラーシェアリング(営農型発電)」の見学会を行った。

<目的>

ソーラーシェアリングはエネルギーの千産千消に繋がるだけではなく、売電による副収入を得られるといったメリットがある。しかしながら現状ではまだ十分に認知されておらず、周知を図っていく必要がある。本企画を通して、ソーラーシェアリングの普及の一助とすることや、「農業とエネルギーの未来」「SDGs」などをテーマに、このような新しい環境に配慮した農業モデルについて関心と理解を深めてもらうことを目的とする。

<2018 年度実施状況>

2018 年度に新規に企画立案し、下半期にソーラーシェアリング見学会の実施を目指して、京葉銀行、千葉エコ・エネルギー株式会社、千葉大学環境 ISO 学生委員会の 3 者間で実施に向けて検討をしたが、実現に至らせることができなかった。このため、企画としては 2019 年度への持ち越しとなった。

<2019 年度実施状況>

千葉エコ・エネルギー株式会社の協力を得て、下記の通り実施した。企業関係者の誘致は京葉銀行が行い、学生委員会は案内書の作成、プログラムの企画などを担当した。

・日時: 2019 年 9 月 18 日(水) 13:00~15:30

・場所: 千葉市緑区大木戸町 アグリ・エナジー1 号機

- ・内容: (1) 京葉銀行挨拶 (担当:京葉銀行)(5 分)
- (2) 設備の屋外見学 (担当:千葉エコ・エネルギー)(50 分)
- (3) 当委員会や本プロジェクトの紹介 (担当:学生)(5 分)
- (4) 設備の屋内説明 (担当:千葉エコ・エネルギー)(30 分)
- (5) 質疑応答 (担当:千葉エコ・エネルギー)(20 分)
- (6) ニンニクの種子選別体験(学生のみ) (30 分)

・参加者: 企業関係者 9 名、学生 7 名、行員 5 名、千葉エコ・エネルギー株式会社社員: 1 名

・結果: 台風一過で道路状況などが大変であったが、なんとか無事に開催することができた。ソーラーシェアリングという新たな事業形態を紹介する場とあって、参加者はみな真剣に説明を聞いていた。質疑応答の時間以外の時間にも多くの質問が出され、参加者のソーラーシェアリングに対する認識を深めることができた。



▲左:見学会を実施した農地の様子 中央:設備見学の様子 右:ハウス内での説明の様子

<企画の感想>

学生:「以前から農業と環境問題の両面を解決する営農型発電に興味があったが、実際に設備を見学するのは初めてだった。次の機会があれば実際に体験してみたいと思った。導入面や営農面でのメリット・デメリットを考え、さまざまな作物を試している段階ということで、導入事例が増えデータが蓄積されれば次世代の農業形態として期待が持てるシステムであると感じた。実際に取り組んでいる人からの話はとても興味深かった。また、見学会を通して営農型発電について理解を深められただけでなく、企画を実行する大変さと達成感を体験することができた。」

京葉銀行支店長:「梨が特産の地域だが、採算性の低さからなかなか経営が立ち行かなくなる農家が増えている。そういった農業経済状況への一つの提案になればよい。」

千葉エコ・エネルギー 富岡弘典様:「農地で農業を継続しながら電気を創る営農型太陽光発電を取り上げてもらいました。地域の新しい取り組みや企業とのコラボレーション企画に期待します。千葉大生の若くて柔軟な発想で今後もどんどん挑戦してください。」

<来年度の目標>

今年度の実施効果を検証し、来年も実施するか検討していく。

(2) こどもエコまつり



<概要>

環境 ISO 学生委員会が培ってきた環境教育の知見やノウハウを活かして、地域の子どもたちを対象としたイベントを実施した。イベントはゲームや工作体験を通じて、環境について考える機会を提供した。学生委員会がコンテンツを企画・準備・運営し、京葉銀行はイベントの実施場所・機会を提供する。

<目的>

持続可能な社会の構築が求められている現代において、環境教育は非常に重要なファクターである。本企画では、子ども向けの環境意識啓発のイベントを実施することで環境教育を推進する。

<成果報告>

子供たちに楽しみながら環境やエコについて学んでもらうことができた。

・参加した延べ人数 学生:64名、行員:12名、来場者:約485名(子ども300人程度+親)

<2017年度実施状況>

① 子ども参観日への参加

京葉銀行主催の「子ども参観日“αバンク体験ツアー2017”」にて、環境教育イベントを実施した。

- ・日時:2017年8月3日 13:15~14:30
- ・場所:京葉銀行本店
- ・内容:ゲーム、エコクイズ、オリジナルうちわづくり
- ・関係者:学生8名
- ・結果:23名の子供が参加した。どの子供も非常に積極的であった。エコクイズに真剣に取り組んでおり、記念となるオリジナルうちわも作成したため、環境に対する関心は増したと考えられる。



▲当日の様子(左:集合写真 中央:うちわづくり 右:エコクイズ)

② こどもエコまつり in 保田小学校

- ・日時:2017年8月20日 11:00~15:00
- ・場所:道の駅「保田小学校」(千葉県安房郡鋸南町)
- ・内容:紙すき体験、魚釣り分別ゲーム、エコ・昆虫クイズ、オリジナルうちわづくりのブースを設置した。各ブースにはスタンプも置いて、同時にスタンプラリー企画も実施した。
- ・関係者:学生12名、教職員2名、行員6名程度
- ・結果:来場者数は300名ほどで、このうち100人くらいの子供が工作等の体験を行った。



▲当日の様子(左:紙すき体験 中央:魚釣り分別ゲーム 右:エコ・昆虫クイズ)

<2018 年度実施状況>

① 子ども参観日への参加

京葉銀行主催の「子ども参観日“αバンク体験ツアー2018”」に参加し、環境教育イベントを行った。

- ・日時:2018年8月3日 13:15~14:30
- ・場所:京葉銀行本店
- ・内容:アイスブレイク、エコクイズ、ペットボトルで風鈴作り
- ・関係者:学生9名
- ・結果:27名の子どもが参加した。クイズと工作を通して身近な環境問題を考えるきっかけを与えられた。



▲当日の様子(左:集合写真 中央:エコクイズ 右:ペットボトル工作)

② エコまつり in イオンタウンユーカリが丘

- ・日時:2018年8月26日 11:00~15:00
- ・場所:イオンユーカリが丘(佐倉市)
- ・内容:紙すき体験、魚釣り分別ゲーム、エコラベル神経衰弱、お絵かきスペース
- ・関係者:学生22名、行員6名程度
- ・結果:107名の子どもが参加し、楽しそうに体験した。リサイクル・分別・エコラベルについて伝えることができた。



▲当日の様子(左:ブースの様子 中央:魚釣り分別ゲーム 右:お絵かきスペース)

<2019 年度実施状況>

今年度は別企画を充実させる関係で、本企画の開催は1回とした。

① 子ども参観日への参加

京葉銀行主催の「子ども参観日“αバンク体験ツアー2019”」に参加し、環境教育イベントを行った。

・日時:2019年8月2日(金) 13:15~14:30

・場所:京葉銀行本店

・内容:

(1) レクリエーション(アイスブレイク)

楽しい雰囲気づくりのため、簡単なゲームを行いながら、グループ分けや自己紹介を行った。

(2) 環境クイズ

環境に関するクイズを10問出題した。問題はスクリーンに映し、ホワイトボードで解答してもらった。

(3) 工作体験

牛乳パックでパクパク人形を作る工作体験を行った。

身近なものや捨ててしまうようなものを再利用して遊べることを学んでもらった。

(4) 古着でエコバック作り【新企画】

参加する子供たちに古着を持ってきてもらい、学生がエコバックにリメイクして、学生委員会が作成したうちわとともにプレゼントした。裁ちばさみで生地を切った部分を結んで作成し、底部分の強度を上げる為に布用接着剤を用いた。いそちゃんマークをスタンプで塗布した。

・関係者:学生13名、行員多数

・結果:28名のこどもたちが参加してくれた。工作体験や環境に関するクイズなどを通して子どもたちに楽しく身近な環境やエコについて学んでもらうことができた。



▲当日の様子(左:集合写真 中央:当日の様子 右:古着を加工したエコバック)

<企画の感想>

学生:「参加する子供たちに対する環境クイズや工作の難易度が少し低かったように感じた。そのため、学生委員会の学外教育班などに話を聞いたりして企画内容を吟味することで、より子供たちにとって実りのあるイベントになるのではないかと考えた。古着で作ったエコバックは主に保護者の方々にご好評いただいたため、作り方を印刷したプリントを配り自宅で子供たちと作ってもらうよう促すと、子供たちへのフィードバックも行えるのではないかと感じた。」

京葉銀行 ご担当者様:「参加した子供たちがみな楽しそうにしていたのが印象的だった。千葉大生によるこの企画は毎年好評なので、次年度以降も引き続き協力をお願いしたい。」

<来年度の目標>

今年の目標はイベントを通して子供たちに楽しく環境やエコについて学んでもらうことだった。来年度は企画内容を練る時間を十分に取、更に子供たちにとって有意義かつ楽しいイベントを実施したい。

(3) 千産千消フェア～ちばを食べてエコしよう～



<概要>

地産地消を千葉に根差した形で行う企画である。学生委員会主催の Chiba Winter Fes 内において千葉の特産品及びその加工品を販売した。京葉銀行に出店農家を紹介いただいた。

<目的>

地産地消は食材の輸送距離を減らすことによって輸送に伴う CO₂の排出を抑え、環境への負荷を小さくするという取り組みであり、特産品の販売を行うことによって地産地消に貢献するとともに、地域活性化を支援する。

<成果報告>

3年連続で行い、様々な千葉の特産品を多くの方に PR することができた。

・参加延べ人数 学生：10名、行員：9名、出店した店舗数：6店舗

<2017年度実施状況>

・日時：2018年2月12日 10:00～17:00

・場所：千葉大学西千葉キャンパス

・内容：学生委員会が主催する環境啓発イベント「Chiba Winter Fes 2018」の飲食ブースにおいて、千葉県産の野菜や落花生等を農家等に出店依頼をし、販売した。

・関係者：学生3名、行員3名

・出店者：(株)自然農法販売共同機構、株式会社シエフミートチグサ、株式会社 オオノ農園

・結果：イベントへは約1500人もの学生・教職員や地域の市民が来場した。循環型農業を目指し自然由来の有機肥料を多く利用した作物や加工品などを販売することができた。



▲左：農産物の販売テント 中央：落花生加工品の販売テント 右：販売の様子

<2018年度実施状況>

・日時：2019年2月11日 10:00～17:00

・場所：千葉大学西千葉キャンパス

・内容：学生委員会が主催する環境啓発イベント「Chiba Winter Fes 2019」の飲食ブースにおいて、有機栽培方法を採用している野菜農家や落花生の加工品取扱業者、千葉県香取市の食品取扱業者の3店舗に参加していただき、千葉県の特産品などを販売した。販売の際には、京葉銀行の方々と学生が売り子として店頭販売を行った。

・関係者：学生3名、行員6名

・出店者：(株)自然農法販売共同機構、株式会社 オオノ農園、(株)NIPPONIA SAWARA

・結果：イベントへは雪の降る中、約600人もの学生・教職員や地域の市民が来場した。



▲左:香取市の食品の販売の様子 中央:落花生加工品の販売の様子 右:有機野菜の販売ブース

<2019 年度実施状況>

新型コロナウイルスの影響で中止となった。

- ・日時:2020年3月1日10:00~16:00 予定 (Chiba Winter Fes 2020 の中止に伴う)
- ・場所:千葉大学西千葉キャンパス
- ・内容:学生委員会が主催する環境啓発イベント「Chiba Winter Fes 2020」の飲食ブースにおいて、有機栽培方法を採用している野菜農家や落花生の加工品取扱業者、お米の加工品取扱業者の3店舗に参加していただき、千葉県の特産品などを販売する。
- ・関係者:学生3名
- ・出店者:株式会社オオノ農園(香取市)…穀つき落花生、落花生ペースト、柿ピーナッツ、バタピー等
株式会社まんだのファーム(市原市)…みょうが
株式会社新倉(鴨川市)…ぬれ揚げ煎、バームクーヘン
- ・結果:

Chiba Winter Fes 2020 でのメインターゲットが中高生であるため、その場で野菜そのままの味を楽しめるものを販売しようと試みたが、出店できる企業を見つけることができず、例年同様農作物やその加工品の販売を企画した。その後、Chiba Winter Fes 2020 の中止に伴い、企画も中止する運びとなった。

<企画の感想>

学生:「色々な人に相談しながら進めていき、京葉銀行様にも多大なご迷惑をおかけしたのにもかかわらず、このような結果となってしまったのは、非常に残念に思う。次年度もし機会があれば、より良い企画になるように頑張っ取り組みたい。」

<来年度の目標>

今年度中止になってしまったので、Chiba Winter Fes をリベンジ開催するときにはぜひ実施したい。

(3)-2 千葉大学のギンナンを食べよう！

12 つくる責任
つかう責任



<概要>

2018 年度の新企画として、千葉大学構内のギンナンを学生委員会と京葉銀行が共同で収穫する取り組みを行った。収穫したギンナンを地域の方へ配布することで、身近な食資源の活用を啓発した。

<目的>

千葉大学構内は秋ごろになると例年ギンナンの実による悪臭が漂うという実態があり、ギンナンの実を採取することで悪臭の軽減を図る。また身近な樹木の実を収穫・販売することで、学生や地域の方々の身近な食資源に対する関心を高めるとともに、新たな地産地消としての形を模索する。

<2018 年度実施状況>

○ ギンナン収穫・加工

- ・日時:2018 年 10 月 2 日、4 日、11 日、16 日、18 日(計 9 回)
- ・場所:千葉大学西千葉キャンパス
- ・内容:ギンナンの拾得・皮むき・洗浄・乾燥を行った。また、18 日には学生と京葉銀行行員が共同で行った。
- ・関係者:学生延べ 40 名、行員 5 名
- ・結果:収穫したギンナンの数は約 3,000 個となった。



▲左・中央:ギンナン収穫の様子 右:収穫されたギンナン

○ ギンナン配布

- ・日時:2019 年 2 月 11 日
- ・場所:千葉大学西千葉キャンパス
- ・内容:「Chiba Winter Fes 2019」において、収穫したギンナンをイベント来場者に向けて配布した。また、銀杏収穫の様子や、ギンナンのかき揚げレシピを掲載したパネル展示を行った。ギンナンかき揚げのレシピについては、京葉銀行が考案し、学生が試作することで作成した。ギンナン配布の際に希望者には紙媒体でレシピを配布した。
- ・関係者:学生 1 名
- ・結果:収穫した約 3,000 個のギンナンを全て、イベント来場者に無料で配布することができた。



▲左:配布の様子 右:試作したギンナンのかき揚げ

(4) Chiba クリーンアクション



<概要>

学生と行員・地域住民が共同で環境保全のためのボランティア活動を行った。2018 年度から館山沖ノ島を中心に環境保全活動に取り組む NPO 法人「たてやま・海辺の鑑定団」と連携し、沖ノ島周辺の環境保全活動への参加を通じて「持続可能な形で自然を守りながら活用する仕組みづくり」を実際の活動を通じて学んだ。

<目的>

アマモ再生事業の一つに参加することで海の環境保全に貢献する。

※「海のゆりかご」ともよばれる稚魚の保育場、酸素の保有や水質の浄化で環境保全に重要な役割を果たす海草の一種である。

<成果報告>

2 年間で 1 万個近い種子を植え、1,500 株ほどを館山の海に戻すことができた。

・参加延べ人数 学生：119 名、行員：20 名

<2018 年度実施状況>

① 海岸清掃活動

・日時：2018 年 10 月 6 日 10:00～12:30

・場所：千葉県館山市沖ノ島海水浴場

・内容：海のごみ問題に世界規模で取り組む「国際クリーンアップ」キャンペーンに参加し海岸の清掃活動を行った。

集めたごみはガラス・金属・その他に分別した。また、前日の雨で漂着した竹の処理も行った。

・関係者：学生 20 名、行員 3 名

・結果：キャンペーン参加者全員で合計約 160 キロのごみを収集した。

② 講演会

・日時：2018 年 10 月 6 日 14:00～15:00

・場所：みなとオアシス「渚の駅たてやま」

・内容：たてやま・海辺の鑑定団理事長の竹内聖一氏を講師に招き「活かそう地域の宝物！南房総館山・沖ノ島の自然環境保全と活用のしくみづくり」と題して、珍しい漂着物や鑑定団設立の経緯などの講演会を開催した。

・関係者：学生 20 名、行員 3 名



▲左：集合写真 中央：海岸清掃の様子 右：講演会の様子

③ アマモの苗床づくり会参加

- ・日時:2018年11月23日 10:00~12:00
- ・場所:館山船形漁業協同組合
- ・内容:アマモの種子を植えるための土づくりを行い、学生が学内の落ち葉を用いて作った堆肥を一部腐葉土の代わりに用いて実験用プランターを制作した。その後アマモの種子の植え付けを行った。また、船形漁港を見学した。
- ・関係者:学生17名、行員5名
- ・結果:合計で5000粒のアマモの種子をプランターに植えることができた。



④ たてやま・沖ノ島・里海シンポジウムに出展

- ・日時:2019年2月16日 10:30~16:00
- ・場所:イオンタウン館山 ハニーズ横特設会場
- ・内容:会場の一角に eco プロジェクトとしてブース出展を行った。3枚のパネルを用いて学生委員会と当プロジェクトの活動紹介を行い、子供向けには射的ゲームを行った。
- ・関係者:学生9名、行員4名
- ・結果:シンポジウム全体には合計230名、当ブースには子供95名、大人78名の合計173名が訪れた。



<2019年度実施状況>

① アマモ苗床移植会

- ・日時:2019年5月19日 9:00~11:30
- ・場所:館山市(沖ノ島)
- ・内容:海の深いところに植えるアマモの苗の根を紙粘土で包んだ。また、一部のアマモの苗を浅瀬に植えた。
- ・参加人数:学生44名、行員5名
- ・結果:予定していたアマモの苗すべて(1500株)に粘土をつけダイバーの方々の手伝いがあった。また、浅瀬には予定していたアマモの苗をすべて植えきることができた。そして活動中に報道関係者(房日新聞)に取材を受け、Chiba クリーンアクションの広報をすることができた。



▲左:集合写真 中央:苗に粘土をつける様子 右:浅瀬に苗を植える様子

② アマモ種子選別会

- ・日時:2019年9月7日 9:30~12:00
- ・場所:館山 お茶の水女子大学湾岸生物教育研究センター
- ・内容:6月に採集したアマモの花枝を海水中で熟成させたものの中からピンセットで種子のみを取り出し、不純物を取り除いた(写真右)。種子の選別が終わり次第館山の海に生息する生物の観察を行った。
- ・関係者:学生4名
- ・結果:アマモの種子を約10000粒選別することができた。活動中、学生委員会が作成したうちわを参加者に配ることで、委員会の広報を行うことができた。



③ アマモの苗床づくり会

- ・日時:2019年11月23日 10:00~12:00
- ・場所:館山船形漁業協同組合
- ・内容:アマモの土づくりを行いプランターに9月に選別したアマモの種をまき、アマモの苗を育てる準備をした。
- ・参加人数:5名
- ・結果:合計で5000粒のアマモの種子をプランターに植えることができた。



<企画の感想>

○学生:「本企画を通じて、一度失われた自然は簡単には取り戻すことができないことや台風の恐ろしさについて改めて感じることができた。アマモは今年度、台風により大部分がなくなりましたが来年度以降もうまくいくよう継続して参加していきたいと考えている。しかし、本企画を全体的に振り返るとただ参加するだけのものが多かったように感じるので、来年度は少しでもオリジナリティを出していけたらよいと思う。」

○NPO 法人「たてやま・海辺の鑑定団」 理事長 竹内聖一氏:「本プロジェクトにより、学生をはじめとする多くの若者が里海の生態系や環境保全に興味を持ち、アマモ場再生事業や海岸清掃活動等に参加するようになりました。また、活動の担い手が増えたことで、以前に増して多様性のある活動ができるようになりました」

<来年度の目標>

館山に継続的に赴き、アマモ場の再生や9月の台風で被害を受けた沖ノ島の復興のお手伝いをする。
「Chiba クリーンアクション」としては、もう少し学生が主体的に関われる企画を検討する。

(5) 都市鉱山発掘プロジェクト



<概要>

京葉銀行の支店(10店舗)に学生が制作した小型家電の回収BOXを設置し、市民や行員から不要となった小型家電を集めて、小型家電回収の認定業者であるリバーホールディングス株式会社(以下、R-HD)と協力し、「都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクト」を通じて、オリンピック・パラリンピックのメダルにリサイクルされる。本企画は2017年に企画され、2018年度から回収箱を設置し、1年間回収した。学生が回収箱を作成し、京葉銀行が回収システム等の構築・調整を行った。

<目的>

小型家電の回収・リサイクルを促進することにより、環境負荷低減や資源再利用への意識を啓発する。

<成果報告>

約1年間で50.4kgもの小型家電を回収できた。なお、回収期間が終了したため、本企画は2018年度で終了した。

・参加延べ人数 学生:13名、行員:2名

<2017年度実施状況>

① 回収BOXの製作

盗難防止措置など国の規定に則った仕様で、ダンボールで回収BOXを学生が製作した

② 講習受講(2018年1月)

R-HD 収運積替委託先として届け出るため、京葉銀行の役員に講習を受講していただいた

③ 回収BOXの最終確認(2018年1月9日)

R-HD 本社および環境省に赴き、回収BOXの仕様について、試作品を確認していただき、承認をいただいた

<2018年度実施状況>

① 回収BOXの設置(2018年4月) ※回収期間は2018年4月20日~2019年3月

千葉市内の京葉銀行10支店で、行員が学生の制作した回収BOXを設置した

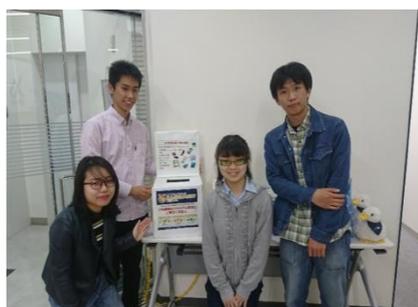
② 回収BOXの設置及び本企画の説明(2018年4月16日)

京葉銀行西千葉支店、みどり台支店で、回収BOXの設置と、支店の職員に向けて本企画の説明を行った。

③ 取材対応(2018年4月24日)

京葉銀行本店営業部で、NHKによる取材が行われた。「おはよう日本」にて放映された。

また、R-HDの広報による取材も行われ、同社HPでコラムとして掲載された。



▲左:BOX設置の様子 中央:本企画説明の様子 右:取材対応

(5)-2 映画祭 Chiba 2019



<概要>

環境教育や環境啓発の一環として、中学生と大学生と一緒に自然環境系の映画を鑑賞したあと、その内容を踏まえたディスカッションを行った。2019年度からの新企画である。学生が企画立案・運営を行い、京葉銀行が実施校を探した。

<目的>

誰にでも親しみやすい「映画」という芸術面から、環境問題や自然保護に興味・関心を持ち、理解を深めるとともに、ディスカッションを通じて、環境問題にどのように向き合っていけば良いかを考えることで、身近なところから行動することが大事であることに気づく。また、これから半年間環境問題について調べ学習をする中学生のきっかけづくりになる。さらに、大学生と中学生が交流することで、普段の生活では得られない視点や気付きをお互いに与えられるのではないかと考えた。

<2019年度実施状況>

・日時: 10月18日(金) 13:20~15:40

・場所: 千葉市立新宿中学校

・内容:

- (1) 導入(10分) : 挨拶、スライドを用いた環境問題の例を提示
- (2) 映画視聴(30分) : 『平成狸合戦ぽんぽこ』(監督:高畑勲)の冒頭部分
- (3) ワークシート記入(10分)
- (4) 休憩(10分)
- (5) アイスブレイク(10分): バースデーチェーン (1グループ6~7人、クラス混合)
- (6) グループディスカッション(30分)
 - ・テーマ「タヌキと人間はどのようにすれば一緒に暮らせたのだろうか?」
 - ・中学生の各班に大学生が1人付き、ディスカッションの進行を担う
- (7) 意見共有(10分): 約20人のグループで意見を共有した
- (8) 全体発表(10分): 数班ステージに来てもらい、全体に向けて意見を発表した
- (9) 映画視聴(5分): 結末部分
- (10) まとめ・挨拶(5分): ワークシート記入、教員からのフィードバック、学生の挨拶



▲映画視聴の様子



▲ディスカッションの様子

・関係者: 学生21名、事務局員1名、行員2名、取材2名

・結果: 中学生129名に対して環境教育を行うことができた。皆集中して、映画視聴やディスカッションに取り組んでおり、中学生の今後の調べ学習への興味付けを行えた。また、中学生だけでなく大学生も、中学生の柔軟な発想に触れることのできた良い機会になった。中学校の教員からも好評をいただいた。



▲グループディスカッションの様子

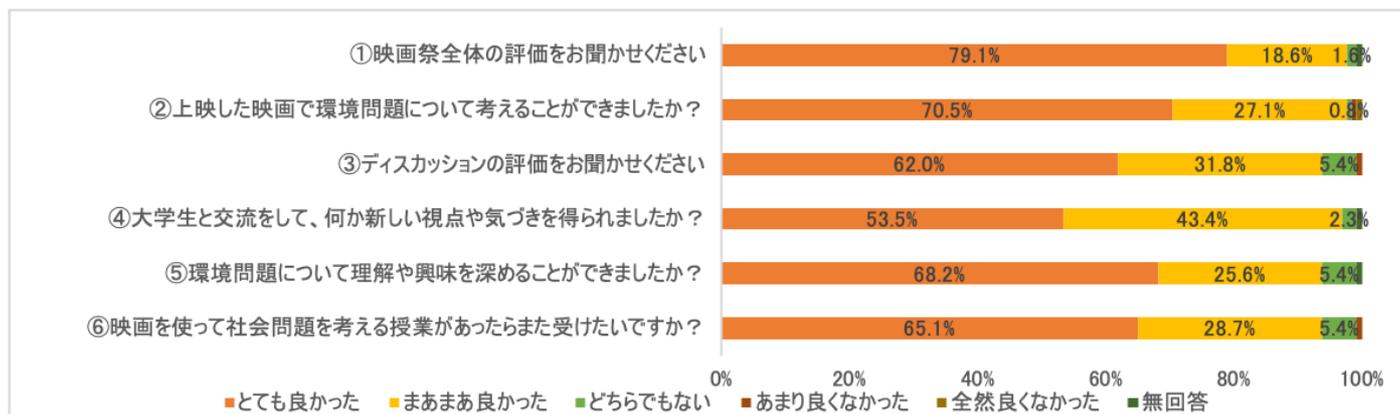


▲ディスカッションの結果例



▲全体発表の様子

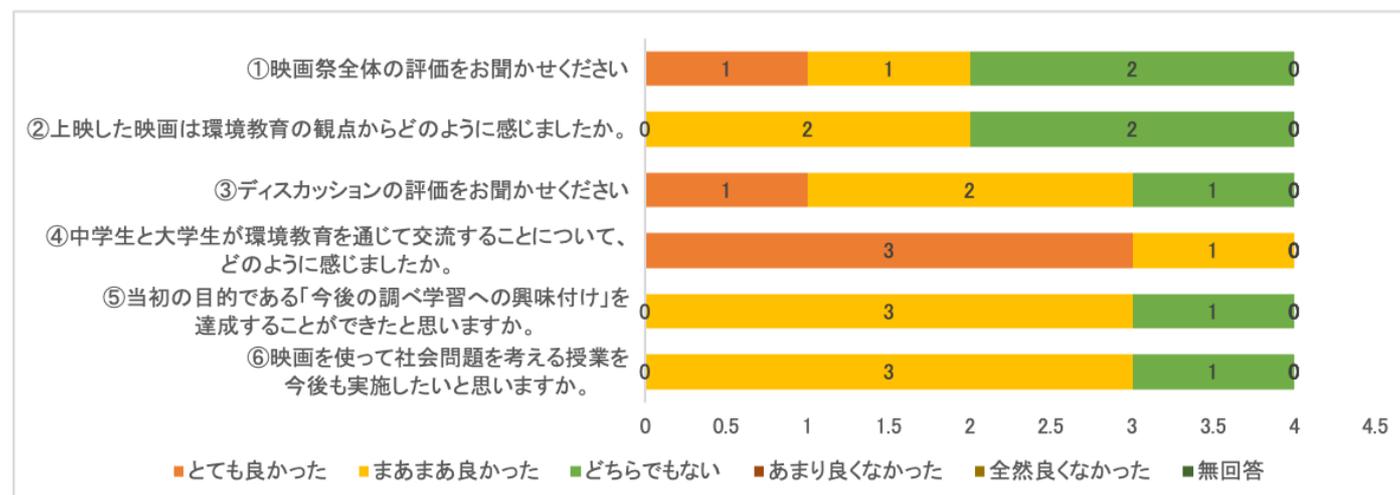
【アンケート結果(中学生)】 全 129 名



⑦感想や意見等

- ・普段何気なく観ているジブリも視点を変えれば、1つの環境問題の題材になると思うと、生活の中でも考えてみたいことがたくさんあることに気付いた。まとめの学習で何を題材とするか迷っていたけれど、身近な場所から選んでいこうと思った。
- ・アニメ映画は楽しく見る事ができるので、環境についても自然とよく知ることができた。
- ・人間でないものが主人公なので、いろいろな考え方がとてもしやすく楽しかった。
- ・話し合いでは、いろいろな視点からの意見が聞けて、考えを深めることができた。
- ・大学生と交流を行うことで、いつもとは違う感じで、意見を深めることができた。
- ・ディスカッションをし、周りの友達の考えを自分の意見に取り入れて、またそこから考えたりすることもできたのでよかった。
- ・今まで環境問題のことを考えたことがなく、自分1人で資料だけをもとにやるととても難しく、「やりたくないな」と思っていた。でも、映画で考えると、とても印象に残って非常に考えやすかった。
- ・前観た映画だったけど、視点を変えると、思考がより一層深まった気がする。

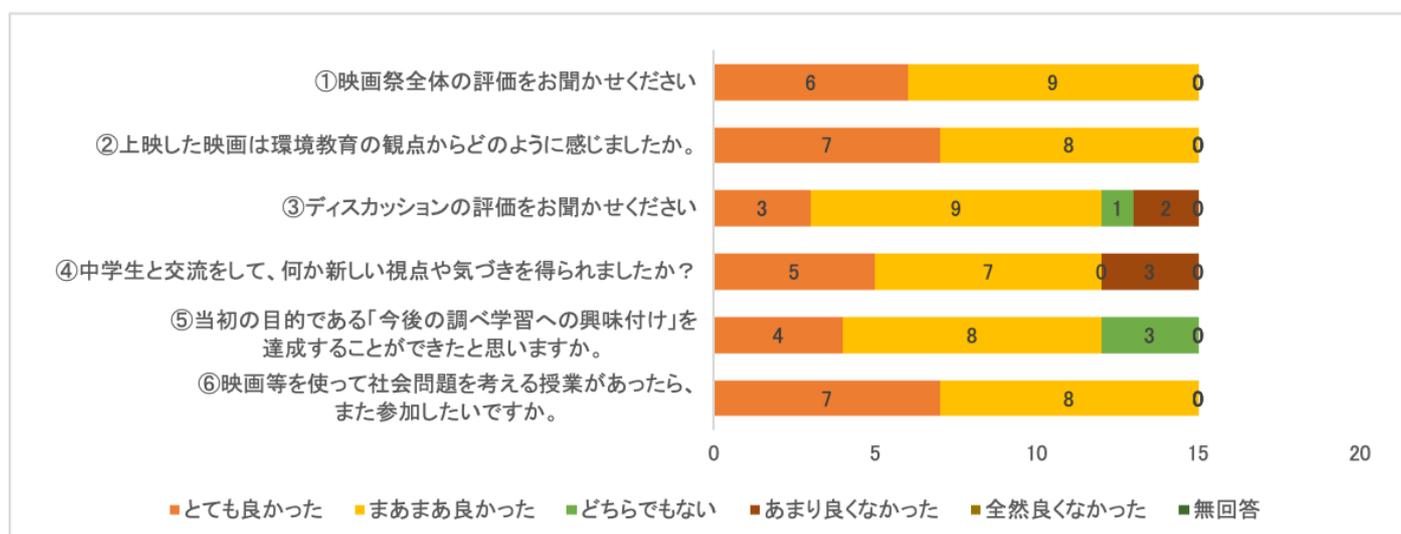
【アンケート結果(中学校教員)】 全 4 名



⑦感想や意見等

- ・普段何気なく観ている映画を環境問題という視点で生徒たちは観ていないので、視野を広げる機会にはなっと思う。
- ・「平成狸合戦ぽんぽこ」は現代の環境問題にあっていないのではないかな。アマゾンの焼畑などの方が問題点としてはわかりやすいと思う。
- ・ジブリ作品は環境、共生の視点でも考えられるポイントがあるので、導入としてはよかったと思う。

【アンケート結果(大学生)】 全 15 名



⑦感想や意見等

- ・付箋に意見を書いたため、意見を共有しやすかった
- ・少人数のディスカッションだったので、内気な子も議論に参加でき、また全員の意見を聞いたうえで話し合うことができた。
- ・大学生側も、中学生の柔軟な発想に触れることができた。
- ・「人間が狸に合わせなければいけない」というものから「狸の動物園」を作るという中学生らしい意見まで様々で、生徒同士が互いに自分と異なる考え方を知る機会になっただけでなく、大学生も新しい視点をもつきっかけになったと思う。

<企画の感想>

学生：「この企画は学生委員会としても今までに行ったことがないような企画で、実施前は不安や懸念があった。しかし、この場にいた全員が皆、意識を環境問題に移し、しっかりと授業に参加していただけたことで、この企画を無事成功させることができ、とても達成感を得ている。中学生と大学生の“映画”を通じての交流は、お互いにとって大変有意義なものになったと実感している。一方で、全体の構成やディスカッションのテーマが適切だったか、懸念すべき点もある。」

<来年度の目標>

映画祭の名前に相応しく、かつ発展性の生まれるよう、様々な映画を紹介したり身近な環境活動の紹介をしたりなど改善しながら継続させていきたい。

(6) エコ発信局



<概要>

京葉銀行の Web やチラシ、動画の配信を通じ、京葉銀行の取引先企業や行員、市民、千葉大学生に向けて環境負荷削減のための様々な情報発信を行った。京葉銀行が場を提供し、学生委員会がコンテンツを作成した。

<目的>

環境負荷削減のためのアイデアなどを学生目線で発信し、環境意識の啓発・行動の実践を促す。

<成果報告>

特設ホームページや「いそちゃんの部屋」、YouTube、Instagram などのインターネットでの発信によって、エコに関する様々な情報を発信することができた。

・参加延べ人数 学生:48名、行員:10名

<2017 年度実施状況>

① 特設ホームページ

京葉銀行のサイト内に本プロジェクトの特設ページを作成していただき、Web ページを通して、プロジェクトや各企画について発信した。2017年9月19日にオープンした。(https://www.keiyobank.co.jp/ir/eco_project/)

② エコ啓発記事「いそちゃんの部屋」

特設ページの中に「いそちゃんの部屋」と題した専用のページを設け、身近なエコに関する知識を発信していく。季節やブームに合わせ、月に一度のペースで更新する。2017年9月号から開始し、7号掲載した。

③ 京葉銀行情報誌『きずな』への寄稿

京葉銀行の情報誌「きずな」に寄稿し、学生委員会・本プロジェクト・省エネ豆知識を紹介した。No.15「きずな 2017秋・冬号」(2017年10月12日発行)に1ページの掲載であった。



▲左:特設ページ 中央:いそちゃんの部屋(2018年3月号) 右:「きずな」寄稿ページ

<2018 年度実施状況>

① エコ啓発記事「いそちゃんの部屋」

前年度に引き続き、4月～7月まで3号掲載。その後、2019年度の方針として投稿頻度を3ヶ月毎にした。2019年新春号では、グリーンハウス様のご協力のもと、環境に優しいレシピを特集した。

② Instagram と YouTube の開設

新たに、若者に普及している Instagram や YouTube での発信を新たに開始した。いそちゃんの部屋・新春号に掲載したエコレシピの作り方を実際に撮影し、動画として Instagram と YouTube に投稿を行った。

・Instagram 2018年度に投稿したものの総インプレッション数:763(2019年12月20日現在)

・YouTube 2018年度に投稿したものの総再生数:77回(2019年12月20日現在)

③ LINE による広報

京葉銀行の公式 LINE にて本プロジェクトに関する広報を行っていただいた。



▲左:いそちゃんの部屋(初春号) 中央:Instagramへの投稿 右:LINEによる広報

<2019年度実施状況>

① いそちゃんの部屋

前年度に引き続き、3ヶ月毎に更新した。

○春号「食べられるハーブを植えよう」(写真上段左)

- ・更新日:2019年5月20日
- ・内容:食べることのできるハーブを紹介し、育て方や調理法について特集した。

○夏号「ドライフルーツを美味しく食べてエコな生活を！」(写真上段右)

- ・更新日:2019年7月17日
- ・内容:ドライフルーツの作り方やそれをういた料理の方法について特集にした。

○秋・特集号「SAWARA」(写真下段)

- ・更新日:2019年11月15日
- ・内容:実際に佐原に赴いた様子を学生の声と共に執筆した。



② 広報レクチャー

- ・日時:2019年8月14日 10:00~13:00
- ・場所:京葉銀行千葉みなと本部
- ・内容:広報グループにプレスリリースなどの広報のやり方をレクチャーしていただいた。その後、社内見学や社内食堂でランチをした。
- ・関係者:学生12名、行員3名



▲左:社内見学の屋上にて集合写真 右:レクチャーの様子

③ 千葉をもっと知って楽しく

千葉についての理解を深め、地域貢献と地産地消を結びつきたいという思いから、地域の魅力紹介のガイドブックをつくるという企画が生まれた。京葉銀行は2015年より、香取市・佐原信用金庫・地域経済活性化支援機構等と、香取市の地域活性化を目的とした連携協定を締結して、観光振興に向けたまちづくりを行っており、今回、NIPPONIA SAWARA様の協力をいただけることになり、取材に赴き、リーフレットの作成を行った。

- ・日時:2019年8月16日
 - ・場所:千葉県香取市佐原
 - ・内容:まず、上川岸小公園にて浴衣の着付けを行い、佐原商家町ホテル NIPPONIA にて視察を兼ねて地産地消の佐原料理をいただいた。また、小野川にて舟で佐原の街並み散策や古民家ホテルの視察、国指定史跡の伊能忠敬旧宅の見学などを行った。その後、株式会社 NIPPONIA SAWARA に出向している常世田様から京葉銀行の地方創生、NIPPONIA SAWARA についての説明を聞き、質疑応答をした。
- 取材をもとに、いそちゃんの部屋秋・特集号や佐原を紹介するリーフレットを作成した。リーフレットは100部印刷し、エコプロ2019にて60部配布した。Chiba Winter Fes 2020でも配布する予定であったが中止となった。第2版を1,000部印刷し、今後、学生委員会と京葉銀行が各所で配布していく予定である。
- ・関係者:学生7名、行員4名



▲左:集合写真 中央:フレンチを頂く様子 右:リーフレット

④ おばあちゃんの知恵袋

- ・内容:千葉県在住のご高齢者の方々から、エコに関連した昔ながらの豆知識を直接教えてもらい、発信する。現在調整中である。

⑤ Instagram による発信

- ・内容:「いそちゃんの部屋」で発信した内容の本PJの活動について、本PJ公式のInstagramを更新した。
- ・2019年度に投稿したものの総インプレッション数:2997(2019年12月20日現在)

<企画の感想>

○学生:「いそちゃんの部屋では、記事執筆という経験を通して、文字で表現する難しさを改めて感じた。また、今年度は地方創生の現場を訪れる貴重な機会を頂き、実際調査したことでわからない香りや雰囲気などを記事にすることができた。広報レクチャーでは、プレスリリースの基本的考え方を学べた上に普段は見ることのできない銀行業務の様子も見学できた有意義な機会だった。ここで学んだことをいかす機会がほしいと感じた。」

○京葉銀行:「リーフレットの完成度が高いと感じた。内容については企業が作るものと違って、利用者目線でとてもわかりやすいと思った。」

<来年度の目標>

SAWARA のリーフレットについては、来年度も引き続き配布をしていく。

エコ発信局として、このプロジェクトの活動内容を様々な人に知ってもらえるような様々な形で広報をしていきたい。また、それに加え、内容面もより魅力的なものにしていきたい。

(7) 京葉銀行エコチャレンジ



<概要>

学生がエコアイデアを提案し、それをもとに京葉銀行各支店において環境負荷削減に取り組んだのち、取り組み状況や成果などを評価した。

<目的>

学生と京葉銀行がエコアイデアの提案という形で交流し、各支店の環境意識向上から環境負荷削減及び経費節減を目指す。学生の貴重な社会経験の場とすることもねらいの1つである。

<成果報告>

学生が中心となり環境負荷削減の取り組みについて提案をすることで、各支店の環境意識向上および環境負荷削減という目的を達成することができた。また、環境負荷削減という目的のもとで学生と行員が交流する機会を設けることができた。初年度はチェックシートを作成し、次年度に実施・測定し、今年度それを横展開する形とした。

・参加延べ人数 学生:25名、行員:50名

<2017年度実施状況>

① 省エネ省資源行動チェックシートの原案作成

学生委員会の方で千葉大学が使用している「エネルギー効率改善チェックシート」をリバイスし、京葉銀行の支店チェックで用いるチェックシートの原案を作成した。

② みどり台支店 エコチェック (2017年8月9日)

学生8名が京葉銀行みどり台支店を訪問し、サンプル調査として職場見学とヒアリングを行った。聞き取った情報とチェックシートの原案を比較し、実情にそぐわない項目の削除・不十分な項目の追加を行い、シートを改善した。

③ 「省エネ省資源行動チェックシート」及び「目標設定&実施計画策定シート」の作成 エコチェックをもとに「省エネ省資源行動チェックシート」を仕上げ、それと対応して目標や実施計画を策定するためのフォーマット「目標設定&実施計画策定シート」も作成した。

④ 実践

- ・2017年9月に2つのシートを各支店に配布し、手順に従って実践していただいた。
- ・2017年12月には各支店が記入した「目標設定&実施計画策定シート」が提出された。



項目	現状	改善ポイント	実施状況
照明	照明器具の点検・清掃、点検・清掃の記録簿を提出する。また、点検・清掃の記録簿を提出する。また、点検・清掃の記録簿を提出する。	照明器具の点検・清掃、点検・清掃の記録簿を提出する。また、点検・清掃の記録簿を提出する。	
空調	空調機の点検・清掃、点検・清掃の記録簿を提出する。また、点検・清掃の記録簿を提出する。	空調機の点検・清掃、点検・清掃の記録簿を提出する。また、点検・清掃の記録簿を提出する。	
給湯	給湯機の点検・清掃、点検・清掃の記録簿を提出する。また、点検・清掃の記録簿を提出する。	給湯機の点検・清掃、点検・清掃の記録簿を提出する。また、点検・清掃の記録簿を提出する。	
その他			

▲左から:みどり台支店での集合写真、聞き取り調査の様子、目標設定&実施計画策定シート、省エネ省資源行動チェックシート

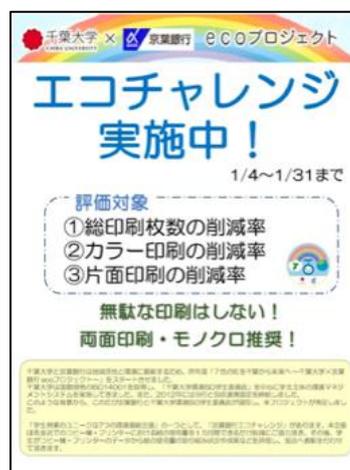
<2018 年度実施状況>

① 「省資源行動&目標設定&実施計画策定シート」の完成

前年度の策定シートを改良し、策定項目を数値評価のしやすい”紙の削減率”のみに絞り、「省資源行動&目標設定&実施計画策定シート」を作成した(右写真)。

② 各支店でエコチャレンジの実施

- ・日時:2019年1月4日~1月31日
 - ・場所:京葉銀行 千葉市内の20支店
- 同シートを記入して、コピー機・プリンターにおける紙の使用量の削減に1か月間取り組んで頂いた。その際、コピー機・プリンターの近くに学生委員会が作成した紙削減啓発ポスター(左写真)を貼り、視覚的に取り組みについて周知した。



③ 評価・表彰

- ・日時:2019年2月26日 17:00~18:00
- ・場所:京葉銀行 海浜幕張支店
- ・内容:学生がコピー機・プリンターのデータから紙の使用量を評価し、支店への表彰を行った。また、この企画自体への評価や各支店の紙の削減に向けた意識度、工夫点などの分析のため、各支店に事後アンケートを実施する予定だったが、時間の都合上行うことができなかった。
- ・関係者:学生7人、行員(海浜幕張支店):6人
- ・結果:全体を見ると必ずしも良い結果が出たとは言えなかった。

最も優秀な成績を収めた海浜幕張支店の前年度からの削減率は以下のような結果となった。

○総印刷枚数…61%減 ○カラー印刷枚数…59%減 ○片面印刷枚数…58%減

④ 学生とのディスカッション

- ・日時、場所:同上
- ・内容:資源削減のための取り組みについて、電気・紙・水の3つの項目ごとに案を出して発表を行った。
- ・関係者:学生7名、行員(海浜幕張支店):6名
- ・結果:「紙の印刷枚数を毎日チェックし、省資源意識を保つ」などの意見がみられた。



▲左:集合写真 中央:海浜幕張支店での独自の啓発活動 右:ディスカッションの様子

<2019 年度実施状況>

・日時:2020 年 1 月 6 日～1 月 31 日

・場所:京葉銀行 全 116 支店、千葉みなと本部

・内容:昨年度に海浜幕張支店で効果があった啓発ツールを参考に、学生がオリジナルのツールを作成し、それを全支店に展開した。1 ヶ月間の使用期間で、紙の使用量が削減されたかどうかを測定した。今年度は啓発ツール自体の効果をはかるため、2018 年度まで実施していた目標設定は行わないこととした。

① 啓発ツールの決定

まず、どのような啓発ツールを作成するべきかについて案を出し合った。

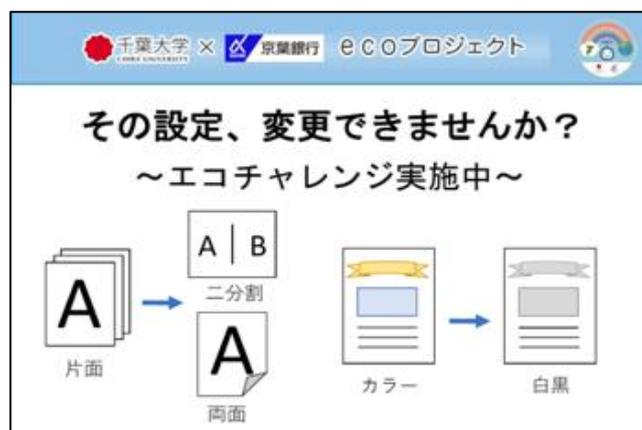
2018 年度に海浜幕張支店で取り組まれていたことを参考に、学生が中心となって作成することができるポスターとポップを啓発ツールとして使用することにした。尚、ポップに関しては、昨年度効果のあった海浜幕張支店のコピー機に貼ったポップでの啓発を今年度は全支店で実施し、他の支店でのポップの効果測定することを目的とした。

② ポスター・ポップの作成

エコチャレンジの実施を周知するためのポスター(右参照)と、コピー機のディスプレイの上に貼って紙の使用量削減を啓発するための 2 種類のポップ(下参照)を 11 月に作成した。

【啓発効果向上のために工夫した点】

- ・イラストを取り入れ、一目でエコチャレンジの概要が理解できるようにした
- ・平易かつ端的な言葉で表現した
- ・目を引く字体と画像と明るい色味を使用した
- ・ポスター全体の色の統一感を出し、見栄えを意識した



▲紙使用量削減啓発ポップ

・結果:

全 116 支店および千葉みなと本部の計 117 箇所、1 月 6 日～1 月 31 日のプリンターとコピー機の使用枚数を計測し、2019 年と 2020 年の「合計使用枚数」および「使用者一人当たり枚数」を比較した。

2020 年 1 月 1 ヶ月間(平日 19 日間)の使用枚数は、1,596,085 枚(1 日平均 84,004 枚・一人当たり 34 枚)であった。前年と比較した結果、117 箇所のうち 65 箇所(55.6%)において、前年より合計使用枚数を削減することができたが、52 箇所(44.4%)では増加した。全箇所を合わせると 6,213 枚の減少となった(前年比 99.6%)。

項目	2020年	2019年	前年比	前年比(%)
合計使用枚数	1,596,085	1,602,298	-6,213	99.6%
一人当たり使用枚数	647	641	+6	100.9%

また、使用者一人当たりの枚数は、117箇所合わせると6枚増で前年比100.9%と微増した。最も削減率の高かった支店はつくしが丘支店で、前年度比25.6%で、使用者数に増減はなかったにも関わらずプリンター使用枚数が半減、コピー機使用枚数は約1/6になり、1ヶ月で13,000枚以上削減していた。一方、最も削減率が低かったのは新検見川支店で前年度比220.7%、使用者数に増減はなかったが、プリンター使用枚数が約4.7倍になり、合計6,000枚以上増加していた。

・考察:

- ・全体で見ると印刷枚数は削減できたので、ポップやポスターの効果はあったのではないかと考えられるが、支店間の削減率の差が大きいため、支店ごとの業務体制の違いなどの影響があると考えられる。
- ・部署ごとの結果から、業務内容によっても紙の使用量は大きく変化することがわかるが、大きく削減できている箇所もあるため、意識で改善できる面も大きいと考えられる。
- ・啓発ツールの効果が一時的である可能性も否定できないため、今後は長期的にキャンペーンを実施し、啓発ツールが長期的に有効かどうかを確認する必要があると感じた。

<企画の感想>

○学生:「今年度は全支店への啓発ツールの展開という目的のもと、ポップやポスターの作成を丁寧に行うことができた。しかし、支店や部署ごとに取り組みの結果が大きく異なるため、紙使用量をさらに削減するためにはそれぞれの業務内容や運営体制などに合わせた対応が必要であると感じた。」

○京葉銀行:「エコチャレンジ実施期間終了後もポップを使用し続けている支店があり、啓発ツール自体は受け入れられていた。しかし、目標がなかったせいか、印刷枚数は増加した支店が多かった。」

<来年度の目標>

さらなる環境負荷削減のために、可能な限り各支店や部署の実情に合わせた意識啓発をしていきたい。そのために、事前や事後のアンケートの実施なども検討し、より効果的な啓発方法を考えたい。

4. プロジェクトの広報内容と結果について

本プロジェクトに関連する広報件数と露出件数について下記にまとめた。

	プレスリリース	毎日新聞の ネットニュース記事	新聞記事	テレビ露出
eco プロジェクト全体	8	4	13	2
京葉銀行による学生委員会の環境活動支援	7	7	5	4
(1) 千葉大生と考える環境ゼミナール	1	1		
(1)-2 ソーラーシェアリング(営農型発電)見学会	1	1	1	
(2) こどもエコまつり	3	2	5	
(3) 千産千消フェア～ちばを食べてエコしよう～	※			
(4) Chiba クリーンアクション	2	1	3	1
(5) 都市鉱山発掘プロジェクト	1	1	5	1
(5)-2 映画祭 Chiba 2019	1		2	
(6) エコ発信局	1			
(7) 京葉銀行エコチャレンジ	1			
eco プロジェクトを含む表彰関連	6	1	2	
合計	32	18	36	8

※千産千消フェアのプレスリリースを2020年2月20日に実施する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により Chiba Winter Fes 2020 が中止となったため、本リリースも中止となった。

(1) プレスリリース

プレスリリースは千葉県政・市政記者クラブ(一部、文部科学省記者会)への配布のほか、Web 配信のリリース(PRTIMES)を行った。そのほか、特設サイトや千葉大学のHPへの掲載も行った。

日付	タイトル・WebリリースのURL	記者クラブ	Web配信
2017年			
6月19日	千葉大生と京葉銀行の協同ECOプロジェクト企画取材のご案内	○	
7月21日	学生と銀行が協同して地域活性と環境に貢献する「千葉大学×京葉銀行ecoプロジェクト」がスタート	○	○
8月8日	親子で楽しめる! 道の駅・保田小学校で8月20日「こどもエコまつり」を開催	○	○
9月19日	「千葉大学×京葉銀行ecoプロジェクト」の特設サイトがオープン		○
11月9日	千葉大生が企業向けセミナーで「オフィスエコ」について講演		○
11月17日	千葉大学環境ISO学生委員会が「第3回 サステイナブルキャンパス賞」を受賞～企業と協同して生むサステナビリティ～		○
11月20日	千葉大学環境ISO学生委員会が「平成29年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞しました		○
12月11日	千葉大学環境ISO学生委員会が「サステイナブルキャンパス・アジア国際会議」のセッションの司会を務めました		○
2018年			
1月16日	学生企画の「Chiba Winter Fes 2018」を2月12日(月祝)千葉大学にて開催! テレビ番組公開収録も!	○	○
3月19日	千葉大生が、京葉銀行頭取と学長に報告! 「千葉大学×京葉銀行ecoプロジェクト」2017年度実施報告会	○	○
4月13日	「都市鉱山発掘プロジェクト」を学生・銀行・企業の協同で開始。千葉大生が手づくりした小型家電回収BOXを、京葉銀行の窓口に設置。	○	○
5月17日	千葉大学が「International Green Gown Awards」を受賞。世界で最も深く学生が環境の取り組みに関与する大学として表彰されました		○
6月22日	世界の大学の環境に関する取り組みを促進する「EAUC(大学環境協会)」の年次大会において学生が発表		○

8月17日	イオンタウンユーカリが丘で8月26日「こどもエコまつり」開催	○	○
8月20日	文部科学省にて「千葉大学環境ISO学生委員会」による企画展示 8/20～9/25開催	○	○
8月28日	千葉大学の学生が、9月4日に文部科学省にて企画イベントを開催	○	○
9月14日	学生と銀行が協同して地域活性と環境に貢献する「千葉大学×京葉銀行ecoプロジェクト」がパワーアップ!	○	○
9月28日	海辺の環境保全に取り組む「Chibaクリーンアクション」スタート	○	○
2019年			
1月16日	「Chiba Winter Fes 2019」を2月11日(月祝)に開催! 里崎智也氏の講演も!	○	○
2月28日	千葉大生の提案で京葉銀行がエコチャレンジ! 用紙使用量の大幅削減に成功		○
3月8日	千葉大学×京葉銀行ecoプロジェクト2018年度報告会にて、学生が学長に活動を報告		○
5月22日	海のゆりかご「アマモ」の苗移植会に千葉大生44名が参加		○
6月3日	千葉大学環境ISO学生委員会がInternational Green Gown Awards 2019のファイナリストに選ばれました		○
6月17日	SDGsをテーマにした「第13回環境マネジメント全国学生大会」を9月10日・11日に千葉大学で開催! 参加する学生団体を募集します。		○
6月18日	千葉大学環境ISO学生委員会がASCN2019年次大会において最優秀賞を受賞		○
7月11日	千葉大学環境ISO学生委員会がInternational Green Gown Awards 2019で奨励賞を受賞しました		○
7月24日	夏休みにクイズと工作体験で楽しくエコを学ぶ「こどもエコまつり」を開催		○
8月27日	3年目に突入! 「千葉大学×京葉銀行ecoプロジェクト」がグレードアップ		○
8月29日	千葉大生が農業とエネルギーの未来を考える「営農型太陽光発電」の見学会を企画	○	○
10月18日	韓国で開催されたグリーンキャンパス国際フォーラムで 千葉大学の環境への取り組みについて学生が発表		○
10月29日	映画から環境問題を考える 千葉大生21人が中学生129人に授業を実施	○	○
2020年			
1月23日	Chiba Winter Fes 2020を3月1日(日)に開催! 90名の大学生が企業・自治体と一緒に若者たちにエコを発信	○	○

(2) 毎日新聞のネットニュース記事としての配信

千葉大学が毎日新聞と契約している「大学倶楽部」というサイトにニュースとして記事が配信される仕組みを使って広報を行った。

日付	タイトル・URL
2017年	
7月24日	京葉銀行と「ecoプロジェクト」開始 環境で地域貢献 中小企業に助言
2018年	
2月1日	ジャルジャルが出演 学生企画の環境イベントを2月12日に開催
3月29日	持続可能性の取り組みを国際表彰する「GUPES・グリーン・ガウン賞」を受賞
4月8日	ecoプロジェクト「小さな活動が大きな輪に」京葉銀行と学生らが活動報告
4月20日	都市鉱山発掘 学生が製作した小型家電回収箱を銀行窓口に設置
7月5日	イギリスで開催 環境国際会議で学生が環境への取り組みを発表
8月16日	小学生がクイズや工作で楽しく環境を考える 京葉銀行とイベント開催
9月7日	環境ISO学生委員会 文科省で環境への取り組みを発表
9月26日	環境ISO学生委員会の学生が全国大会に参加 SDGsと未来について熱く議論
12月19日	環境ISO学生委員会の学生が韓国・ソウルで開催の国際会議に参加
2019年	
1月23日	環境ISO学生委員会の学生がオフィスエコについて講演 企業関係者に
2月7日	元千葉ロッテ・里崎氏出演 学生企画の環境イベント開催 2月11日に西千葉キャンパス
2月28日	射的でエコ意識向上!? 環境ISO学生委員会がイベントにブース出展
4月5日	学生と京葉銀行によるecoプロジェクト 2年目の進化を学長と頭取に報告
8月9日	クイズと工作でエコ体験 京葉銀行とイベント開催
9月27日	「第13回環境マネジメント全国学生大会」
10月3日	営農型発電見学会を開催 学生の発案で企業と銀行が協力
12月20日	環境ISO学生委員会の学生が発表 「サステナブルキャンパス推進協議会年次大会」で

(3) 新聞記事

掲載日	新聞種類	見出し
2017年		
6月24日	千葉日報	千葉大との連携強化 京葉銀 学生発案で環境啓発
7月22日	千葉日報	学生企画で環境啓発 セミナーや家電回収 京葉銀と千葉大
7月22日	日本経済新聞	千葉大と京葉銀 地元の環境美化 セミナーや資源再利用
7月24日	朝日新聞	千葉大と京葉銀 環境で地域貢献 中小企業に助言
7月24日	日刊工業新聞	環境と地域支援策立案 千葉大と京葉銀 認証取得コンサルなど
8月04日	ニッキン	千葉大生と「エコ活動」 京葉銀、7アイデアを形に
8月04日	千葉日報	小学生26人 銀行員体験 京葉銀、環境教室も
8月21日	千葉日報	楽しみながらエコ学ぶ 千葉大と京葉銀がイベント 鋸南
8月21日	毎日新聞	ゲームを通じて環境問題考える 鋸南でエコまつり
2018年		
1月28日	千葉日報	遊んで“エコ”知ろう 2月に千葉大生がイベント
2月05日	朝日新聞	エコを広げよう@千葉
2月08日	毎日新聞	楽しみながらエコ学ぼう 学生が環境フェス 千葉大で12日
2月10日	大学新聞	エコ意識啓発イベントを実施予定 千葉大学
2月13日	読売新聞	ゲームでエコ学んだよ 千葉大生企画のイベント
3月20日	千葉日報	環境啓発の成果報告 千産千消フェアなど実施
3月27日	日刊工業新聞	学生目線での環境活動で協働
4月04日	毎日新聞	京葉銀とのecoプロジェクト 千葉大生が活動報告
4月19日	東京新聞	東京五輪 メダルに再利用へ
4月20日	朝日新聞	五輪メダル 小型家電の再利用で
4月20日	読売新聞	千葉大 企業との連携に力
4月21日	千葉日報	小型家電回収で五輪メダル製作
4月22日	産経新聞	京葉銀との共同事業 千葉大生が活動報告
4月23日	金融経済新聞	学生と協力してエコ活動 小型家電、10カ舗に回収箱
5月10日	朝日新聞	エコな大学 主役は学生
8月28日	読売新聞	夏休みの親子ら 佐倉で環境学ぶ
9月03日	電気新聞	学生巻き込み長期継続実現 環境・エネルギーマネジメント
9月06日	電気新聞	学生中心にエネ管理 千葉大学 文科省でセミナー
10月7日	千葉日報	沖ノ島の環境保全へ 京葉銀と千葉大、海岸清掃
2019年		
6月05日	千葉日報	産業連携でecoプロジェクト
5月20日	千葉日報	アマモの海を取り戻せ!
5月22日	房日新聞	アマモの苗を移植 沖ノ島で100人が1800株
7月28日	千葉日報	国際大会で最優秀賞 千葉大の学生団体 企業との環境活動評価
10月28日	金融経済新聞	千葉大と「環境考える映画祭」
11月15日	ニッキン	中学生を対象に映画で環境学習
12月07日	日本経済新聞	金融危機、大学とタッグ

2019年度の掲載記事は以下の通りである。

① eco プロジェクト全体

▼左:2019.6.5 千葉日報 右:2019.12.7 日本経済新聞



② Chiba クリーンアクション (アマモ苗移植会)

▼左:2019.5.20 千葉日報 右:2019.5.22 房日新聞



③ 映画祭 Chiba 2019

▼左:2019.10.28 金融経済新聞 右:2019.11.15 ニッキン



京葉銀行
千葉大と「環境考える映画祭」
 京葉銀行は18日、千葉大学と共同で、環境問題を考える映画祭を千葉市の新習中学校前、た。映画を通して、環境に対する問題意識を育ててもらうのが狙いで開催された映画祭。
 中学生の意識向上に役

中学生を対象に ecoプロジェクト
 中学生を対象にした「ecoプロジェクト」の一環として千葉市立新習中学校で、中学生を対象に映画を使った環境問題をテーマにした映画祭を開催した。10月18日、千葉市立新習中学校。
 参加した中学生は環境問題に関する意見を出して議論し、まとめる作業をした。

(4) テレビ露出

放送日	局	番組名	見出し
2017年			
7月21日	NHK	首都圏ネットワーク	学生が銀行と協力 環境保護の提案
7月21日	千葉テレビ	NEWS ちば 930	学生が企業と協力
2018年			
2月08日	千葉テレビ	シャキット!	千葉大学『Chiba Winter Fes』 今月12日(月・祝)開催
2月12日	千葉テレビ	NEWS ちば 930	千葉大生「エコは意識が大事」
2月16日	J:COM	デイリーニュース	Chiba Winter Fes 2018
4月24日	NHK	おはよう日本	大学生と銀行が連携で金属回収
7月09日	J:COM	J-COM ニュース	千葉大学の学生による「省エネ意識啓発イベント」
2019年			
5月21日	NHK	首都圏ネットワーク	“海のゆりかご”取り戻そう!

2019年度の放送は以下の通りである。

○2019年5月21日 “海のゆりかご”取り戻そう!



(5) 文部科学省における企画展示・セミナー開催

- ・日時:2018年8月20日～9月25日
- ・場所:文部科学省新庁舎エントランス
- ・内容:本プロジェクトを含む学生委員会の取り組みについて展示広報、セミナー発表(9月4日のみ)

(6) イベント・セミナー・出張授業等における広報

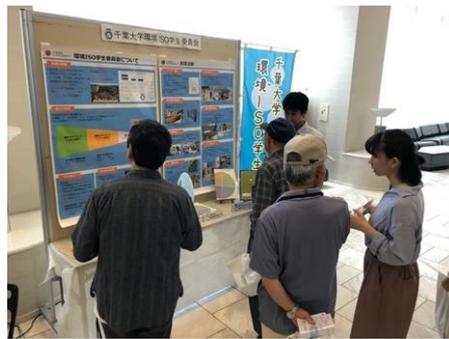
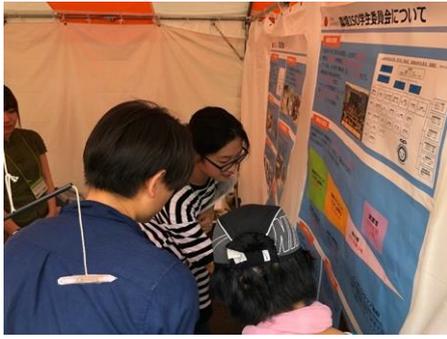
本プロジェクトについては学生委員会が出展した環境系イベントやセミナー等でも広報したほか、国内・海外で開催された会議に参加し、本プロジェクトを含む学生委員会の取り組みについて発表した。合計33回。

2020年に予定していた2回は新型コロナウイルスの影響により中止となった。

日時	イベント・セミナー名	広報方法
2017年		
9月13～14日	第11回環境マネジメント全国学生大会	発表
10月09日	エコメッセ in ちば	ブースにてパネル展示
11月17日	サステイナブルキャンパス推進協議会年次大会	発表
11月18日	千葉商科大学公開講座「自然エネ100%大学」の秋学期編	発表
12月7日～9日	エコプロ2017	ブースにてパネル展示

12月9日～10日	第3回サステイナブルキャンパス・アジア国際会議(ACGS)	発表
2018年		
2月12日	Chiba Winter Fes 2018	企画、パネル展示
3月19日	高尾の森自然学校	発表
6月2日～3日	エコライフフェア	ブースにてパネル展示
6月14日	ちばし環境フェスティバル	ブースにてパネル展示
6月19日	日本工業大学「環境の社会学」講義 ゲスト講師	発表
6月19日～21日	EAUC(大学環境協会)年次大会【イギリス】	発表
8月8日、17日	量子研での講演(那珂核融合研究所、関西光科学研究所)	発表
9月6日～7日	第12回環境マネジメント全国学生大会	発表
10月8日	エコメッセ in ちば	ブースにてパネル展示
10月13日	かまがや環境フェア	ブースにてパネル展示
11月17日	サステイナブルキャンパス推進協議会年次大会	発表
12月01日	第4回サステイナブルキャンパス・アジア国際会議(ACGS)	発表
12月6日～8日	エコプロ 2018	ブースにてパネル展示
2019年		
2月11日	Chiba Winter Fes 2019	企画、パネル展示
4月～5月	千葉大学 ISO 基礎研修(対象:全教職員、学生)	配布パンフに記載
6月1日～2日	エコライフフェア	ブースにてパネル展示
6月14日	ちばし環境フェスティバル	ブースにてパネル展示
6月11日～14日	アジア・サステイナブルキャンパスネットワーク年次大会	発表
6月18日	日本工業大学「環境の社会学」講義 ゲスト講師	発表
8月26日、30日	量子研での講演(播磨地区研究所、放医研)	発表
9月10日～11日	第13回環境マネジメント全国学生大会	発表
9月15日	若者と市民の環境会議	発表
10月17日～18日	京畿道グリーンキャンパス国際フォーラム	発表
10月20日	エコメッセ in ちば	ブースにてパネル展示
11月23日	サステイナブルキャンパス推進協議会年次大会	発表
12月5日～7日	エコプロ 2019	ブースにてパネル展示
2020年		
2月22日	SUDem2020 第3回持続可能な大学の発展ワークショップ	発表
2月26～3月1日	タイ・マヒドン大学派遣プロジェクト 2020(中止)	発表(中止)
3月1日	Chiba Winter Fes 2020(中止)	企画(中止)

○2019 年度 広報の様子



▲左:エコライフフェア 中央:ちばし環境フェスティバル 右:日本工業大学出張授業



▲左:量子研研修講師 中央:放医研研修講師 右:環境マネジメント全国学生大会



▲左:若者と市民の環境会議 右:エコメッセ in ちば



▲エコプロ 2019

(7) 産業連携情報誌『Mira-Kuru』

2018年9月発行の産学連携情報誌『Mira-Kuru』にて学生委員会顧問の倉阪秀史教授と学生委員会の活動を特集していただいた。背表紙では本プロジェクトの活動紹介も掲載された。

京葉銀行情報誌『Mira-Kuru(ミラクル)』No.8「環境を学び、未来を変える」

<https://www.keiyobank.co.jp/ir/csr/information/pdf/mira-kuru8.pdf>

(8) 表彰

表彰式日時	賞名
2017年	
11月14日	低炭素杯2018「優良賞」
11月17日	第3回サステイナブルキャンパス賞「学生活動・地域連携部門」
12月04日	平成29年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰「対策活動実践・普及部門」
2018年	
3月07日	平成29年度21世紀金融行動原則「特別賞(運営委員長賞)」
5月16日	International Green Gown Awards 2017-2018 Student Engagement 部門
2019年	
6月13日	ASCN 最優秀学生活動賞: Best Student Activity Award
7月10日	International Green Gown Awards 2019 Student Engagement 部門 奨励賞

① ASCN 最優秀学生活動賞: Best Student Activity Award

『京葉銀行による学生委員会の環境活動支援』(p.7)に詳細記載

② International Green Gown Awards 2019 奨励賞

「インターナショナル・グリーン・ガウン賞」は、大学で行われている優れた持続可能性の取り組みを表彰する世界的な表彰制度で、EAUC(大学環境協会)によって運営されている。千葉大学環境 ISO 学生委員会がエントリーした「Student Engagement」部門のほか、「Sustainability Institution of the Year」部門と、「Benefitting Society」部門がある。2018年は「千葉大学」として受賞したが、2019年は「千葉大学環境 ISO 学生委員会」としてエントリーし、本プロジェクトを中心とした企業との協同プロジェクトに特化して記載したところ奨励賞を受賞した。

千葉大学は昨年度大賞を受賞しており、2年連続での受賞となった。



▲右: 賞状 中央: 受賞大学の事例が掲載されたパンフレット 右: 受賞大学

5. まとめと来年の展望

(1) 総括

企画	2019	3カ年	進行状況
1. 京葉銀行による学生委員会の環境活動支援	◎	◎	ご支援のおかげで有意義な経験ができた。
2. 学生による「エコアクション 21」取得コンサルティング	○	○	実施できた。今後も実施していきたい。
3. 学生発案の7つの環境貢献企画			
(1) 千葉大生とともに考える環境ゼミナール	-	◎	2019年度は中止となったが今後も継続したい。
(1)-2 営農型発電見学会	◎	○	2019年に初開催できた。今後も検討したい。
(2) こどもエコまつり	◎	◎	継続実施できた。来年度も継続したい。
(3) 千産千消フェア～ちばを食べてエコしよう～	-	○	2019年度は中止となったが今後も継続したい。
(3)-2 千葉大学のギンナンを食べよう！	-	○	2018年度に完了。
(4) Chiba クリーンアクション	○	◎	実施できた。来年度はより発展させたい。
(5) 都市鉱山発掘プロジェクト	-	○	2017年度に完了。成果はあった。
(5)-2 映画祭 Chiba 2019	◎	○	2019年度に初開催。来年度も継続したい。
(6) エコ発信局	○	◎	継続実施できた。来年度はより発展させたい。
(7) 京葉銀行エコチャレンジ	○	◎	継続実施できた。来年度はより発展させたい。

(2) プロジェクトリーダーより

まずは、一昨年度の本プロジェクトの発足から現在に至るまで、多大なるご尽力とご支援を賜りまして、深く御礼申し上げます。3年間本プロジェクトで様々な経験値を積むことができ、当委員会は著しい発展を遂げました。

今年度、「学生委員会の環境活動支援」では、千葉大学にて「第13回環境マネジメント全国学生大会」を開催致しました。主催するという貴重な経験や他大学生との交流により新しい知見を得ることができ、委員会として伸び育つことができました。「エコアクション 21 取得コンサルティング」では、京葉銀行様の地域との強い繋がりを生かし、学生団体がコンサルティングをし、実際に認証取得の審査が受けられる状態にまで進展させることができました。

「7つの環境貢献企画」では、全ての企画で新しいことに挑戦する機会をいただきました。「営農型発電見学会」では、昨年度提案され計画段階で終わってしまいましたが、無事実施することができました。「こどもエコまつり」の“古着でエコバッグ作り”では、思い入れのある服をエコグッズに変えることで、エコをより身近に感じることでできる企画に仕上げることができました。また、「映画祭 Chiba 2019」は、昨年度まで行われていた「都市鉱山発掘プロジェクト」に変わる企画として、立案されました。僭越ながら私が発案し、企画させていただいたこの映画祭を通じて、一から企画・実施することの大変さ、そして楽しさを学ぶことができました。そして何より、企画が大幅に増えた中、貴重なお時間を頂戴し、幾度もご相談させていただいたり会場へご足労いただいたりした行員の方々のお蔭で、プロジェクトをこれまで以上に充実させることができました。このような貴重な経験をすることができたのは、京葉銀行様のお力添えがあつてこそのごことです。

今年度は新型コロナウイルスの影響で4つの企画が中止となってしまい、学生としてもショックでしたが、この経験も次に活かしていきたいと思っています。来年の展望といたしましては、今年度の反省点を改善しつつ、“環境”というテーマから“SDGs”というテーマをより意識して、プロジェクトをより発展させながら進めていくことを視野に入れております。具体的には映画祭 Chiba 2019 のディスカッションのテーマに貧困や飢餓を取り入れたものに広げる等を考えております。

最後に、もう一度皆様のご尽力に御礼申し上げるとともに、引き続きのご支援をお願いし、結びといたします。誠にありがとうございました。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

ASCN(Asian Sustainable Campus Network)2019 年次大会

井上美咲(園芸学部・2年)

1. 参加した目的

海外の学生環境団体との交流で考え方や実践を学び、そこで持続可能な大学への新しいアプローチが見つかるのではないかと考えたからです。また、発表から質疑応答まで全て英語で行うという経験を自分自身のスキルアップとして積みたかったからです。

2. 参加したアクティビティ

ISCES のオープニングセレモニーへの参加、keynote presentation を聴講しました。また、ASCN の会議での千葉大学環境 ISO 学生委員会としてのプレゼンテーションを行い、その前後には中国、韓国、タイの教授や有識者、そして学生のプレゼンテーションを聴講しました。

3. 得られたもの

海外の教授、有識者などのプレゼンテーションから新たな気づきを知り、自分たちと年齢の近い海外の学生たちのプレゼンテーションからはパワーポイントの効果的な使い方や観客へのアプローチ、引き込み方の上手さに驚かされました。

事前に発表内容を組み立てる時には自分たちの学生委員会の強み、最も強調したいものは何かを内側から見つめなおす機会でもありました。国内ではなく、土地も文化も常識も異なる海外という舞台で私たちの伝えたいことを正確に届けるための方法、言葉にもこだわりました。今回私の担当した発表部分は京葉銀行との協同プロジェクトでした。海外の銀行の役割はお金の貸し借りのみで、日本のCSRを行う、企業の方針に関わるなどの企業的な側面は持っていないのではないかとというアドバイスを織田先生に頂きました。いつも委員会活動の内部にいる私たちには通常の事でも、外部の方々に伝わり辛いこともあるのだと感じましたので説明不足がないように注意して取り組みました。

4. 反省点と改善点

中国側から具体的な発表に関する情報が 1 週間前とぎりぎりでしたが、事前準備はしっかりできたと感じます。発表に関しては、事前に日本で毎週のように打ち合わせを重ね、上海に着いてからも話し合い、より良いものへと変わったと思います。しかし他国の学生のプレゼンテーションを見ると新たな発見があり、まだまだ努力できたのではないかと強く反省しました。

5. 所感

英語での発表ということで非常に緊張しましたが、質疑応答では一番多く質問をいただけたのがうれしかったです。事前に準備していた質問予想とは少し違うものでしたが、焦らず 3 人協力して対応しました。事前準備に手伝ってくださった岡山先生をはじめとする ISO 事務局の方々、同行してくださった織田先生、機会をいただいた千葉大学、そして海外への活動報告の資金援助を行ってくださった京葉銀行様に感謝いたします。

目黒貴大(法政経学部・2年)

1. 参加した目的

ずっと心のどこかで ISO の活動として海外に行きたいと漠然としており、それを叶えられるようなプログラム内容だと思ったため、参加する決断をしました。自らが国際化担当班の班長を務めていることもあり、国内の他大学も含め、アジアの大学でどのような活動が行われているのかに関して興味を抱いていたことも理由の 1 つでした。そして、他大学の取り組みをしっかりと分析した上で、千葉大学として、また千葉大学環境 ISO 学生委員会として実現可能なことを提言し、結果的に更なる活動の充実を果たせれば良いと思ったことが参加した目的です。

2. 参加したアクティビティ

1 日目は開会式出席後、講堂で行われた基調講演を聞きました。中には中国語だけで行われた講演もあり、そこは理解することができませんでした。講演と講演の間には環境啓発ポスターの映像が流れたり、民族舞踊を踊ったりと聴衆を飽きさせない工夫が感じられました。2 日目の午前中は各国のネットワークの代表者の方の報告があり、それぞれのネットワークの活動の様子を一部ではありますが、知ることが出来ました。そして午後には学生のプレゼンテーションが各団体 20 分割り当てられました。その中で中国→日本→タイの大学という順番で発表が行われました。他の国の学生はさすがプレゼンに自信がある様子で、パフォーマンスを行っているグループもありました。

3. 得られたもの

今回の上海への派遣で得られた最も自分が得られたと感じていることは、海外の大学で、自国だけでなくほかの国々の教授の方や学生の前で英語を用いてプレゼンを行った“経験”です。普通の大学生活を送ってはいなかなか巡り会うことができない貴重なチャンスを自分のものにすることが出来ました。さらには、発表時間などの決定が本番約 1 週間前というハードスケジュールの中、自分たちの納得のいく発表をすることができたという“自信”も得ることができたと思っています。

4. 反省点と改善点

基調講演を聞くなど受動的な時間が多く、学生との間で積極的なコミュニケーションを取る時間が短く、思っていたよりも交流の時間が短かったと感じました。また、話せたとしても、自分の貧弱な英語力では会話のキャッチボールが長続きせず、自らの能力不足を経験しました。そのため、幅広い教養の獲得、英語力やコミュニケーション能力の向上など、日々の努力が欠かせないと痛感しました。

5. 所感

初めて中国を訪れるということもあり、日本で報道されている中国のマイ

ナスイメージばかりが頭の中に浮かび、出発前日はやや不安感もありました。そのような中でも、一緒に行った仲間と共にけや病もなく帰国することが出来て安心しています。百聞は一見にしかずということわざがありますが、町中の至る所に共産党や地方政府を賛美するスローガンを掲げた横断幕が垂れ下がっていることなどは、政治学を学んでいる自分からすると非常に印象に残る光景で、実際にその地を訪れた人しか抱くことに出来ないことを感じられたと思います。そしてアジアの4カ国だけの学生でもそれぞれ特筆すべき活動を行っており、千葉大学まだまだ進化していかなければいけないと思いました。最後になりますが、引率を快く引き受けてくださった織田先生、このような貴重な経験をさせてくださった大学関係者の皆様、日々の活動だけでなく、このような海外派遣の際に金銭的な支援をしてくださる京葉銀行様、さらに飛行機やホテルの予約など様々な手配をしてくださった環境 ISO 事務局の方々には感謝申し上げます。

洪羽生(園芸学部・2年)

1. 参加した目的

まず、私はこの会が国際的な場であることに魅力を感じ、参加したいと思いました。学生時代の同じ環境の中にいる人たちと意見を交わることにも留まらず、色んな国からそれぞれの文化的背景を持つ人たちが話し合うような場に参加し、ほかの参加者の実際の声を聞くことで、自分の視野が広がり、持続可能な社会を始めとした様々な国際的な問題を考えるにあたってよい経験になるのではないのかと考えました。また自分の祖国ではあるものの足を踏み入れたことのないので、大都会上海の文化に触れ、観光をしたいと思いました。

2. 参加したアクティビティ

ISCES の opening ceremony と keynote presentation、持続可能な社会をテーマにした様々な分野の教授や専門家の講義、フォトコンテストなど/ASCN において、各国の各大学の事例集を紹介したパネルの見学、各大学の教授や専門家のお話、学生のプレゼンテーションの聴講と表彰式に参加しました。

3. 得られたもの

まず私は、大きな目的である初めて国際的な場に参加するという経験をられました。プレゼンテーションを大きく評価していただいたことを通して、

2019 Gyeonggi-do Green Campus International Forum

佐藤朱里(文学部・1年)

1. 参加理由

私がこのフォーラムに参加した理由は、「原点回帰」するべきだと思ったからである。まず、私が ISO 学生委員会に入ろうと思った理由が、高校1年生の時に参加した日中韓ユネスココースフォーラムで環境問題をテ

活動を外に知らせるのは、環境啓発含めた情報の共有という意味で、とても大事であることにも気づきました。そのほかに、自分は質疑応答の際に古臭い英語を使ったことで笑いを通して、実際にこのような場面でないと学べないような英語や作法をたくさん体験し、ぜひ今後の色々な会話の場面に応用したいと思いました。また、持続可能な社会を築き上げるには環境に焦点を向けるだけではなく、ほかにも色々な関り方があること、そして SDGs のすべてのテーマの重要性に改めて気づきました。

4. 反省点、改善点

発表の際に緊張して噛んだり、立ち回りがうまくいかなかったりと、ほかの大学の学生たちのパフォーマンスや豊かな表現力と比較して練習が足りず、もっと入念に準備を行うべきだと思いました。同じように、自分たちの英語力不足によって他人のスピーチ内容を具体的に理解することが出来ませんでした。海外の人と同じ土俵に立ち、対等に意見を交換する手段として英語力が必要であり、そのためにはさらなる勉強が必要だと痛感しました。また、ほかの大学の学生とコミュニケーションを設ける時間を自分たちで作るべきだと思いました。この会議では学生が交流する時間が設けられていなかったため、休憩時間や、会議以外の時間では同じ大学の学生同士で固まらず、勇気を出して積極的に声をかけるべきだと思いました。

5. 所感

とても成就感のある期間でした。大学のキャンパスはとても大きく、何度も迷子になりましたが、その間に沢山見学をすることができ、ごみ分別の方法が日本のものとは全然違うことに気づき、そこから国によって環境への配慮が様々であるということに目を向けるきっかけとなりました。また上海の伝統的な豫園や外灘の見学ができて、中国の文化に触れるという目的を達成できて本当に良かったです。他国の学生たちはとても意欲があり、積極的に話しかけてくれて、国民性の違う人たちが集まる新鮮な体験をすることができました。プレゼンテーションを行うとき、質疑応答を行うときはどれも緊張してしまいましたが、自分たちの活動を外部から評価され、また影響を与えていることで自信を持ちました。最後に、様々な準備を手伝ってくださった事務局の方々、引率をしてくださった織田先生、そして金銭的な支援をしてくださった京葉銀行様に心から感謝いたします。

ーマにディスカッションを行い、その時から環境問題にとっても関心があったからである。そして、ISO 学生委員会に入って数ヶ月経った夏頃、私は ISO 学生委員会の活動に何となく違和感を感じ始めたが、その違和感の理由は自分でもよく分からなかった。そんな時に、このフォーラムの参加者募集の知らせがきて、フォーラムの内容自体は高校1年生の時に参

加したものは少し違ったが、韓国開催であること、環境問題について海外の同年代の人たちと意見を交わすことができるという点は同じだったので、自分自身の環境問題に対する関心の出発点に戻ることができると思った。そして、一旦「原点回帰」を行うことで、ISO 学生委員会の活動に対して抱いた違和感の理由が分かるのではないかと期待があった。これが、私がこのフォーラムに参加した理由である。

2. 学んだこと、今後の発展

このフォーラムに参加して多くの刺激を受けることができたが、特に印象的だったのが韓国の学生の活動に対する強い意志や熱意だった。会場内に設置されていたパネルを用いて、プラスチックごみを与える環境影響について説明してくれた韓国の学生は、その問題についての知識が豊富にあって、その知識をもとに「私たちがどうにかしなければいけない」という強い問題意識を持っていた。また、1日目の夜、部屋が同じだった韓国人の学生(写真右)と話していて、「どんな活動をしているの?」と聞いたら、「SDGsの4番と5番だよ」と言われ、どうしてSDGsの4番と5番の活動をしているかというところまで熱く語ってくれて圧倒された。私を含めた多くの日本人の学生は、SDGsと自分が行っている活動を結び付けられていないどころか、SDGsについての知識もほとんどないというのが現状だと思うが、彼女は当たり前のようにSDGsの話題を出してきたので、とても大きな差を感じた。

このような刺激を受けて、私は「どうして環境問題に取り組んでいるのか、どうして環境問題に取り組まなければいけないのか」を再考しなけれ

ばならないと感じた。やはり、問題意識を持って活動しているのと、持たないでなんとなく活動しているのでは、同じようなことをしていても効果が変わるから、もっと環境問題について学び、そこから芽生えた問題意識を大切に活動するべきである。そう思ったとき、ずっとISO 学生委員会に抱いていた違和感が消えた。私の違和感は「なんとなく環境問題に対して活動をしている」という現状を感じて、その現状に対して生じていたのだ。全ての行動には理由があるべきだと思っているからか、ISO 学生委員会に対してもそれを求めていたのかもしれない。

韓国の学生を見て学んだこと、それが結果的に違和感の解消に繋がったことは、このフォーラムへの参加がとても有意義だったことを示すには十分すぎるのではないかと。しかし、今のままで終わったら意味がないと思うので、今後の活動に活かしていきたい。

今後の発展としては、今回学んだこと、得られたことをもとに、私はISO 学生委員会のメンバーの環境問題に対する意識の改善に取り組みたい。そのために具体的にすることとして、第一に「環境問題についての知識を増やす、現状を知る」ということが挙げられるだろう。知識がないのに、現状を知らないのに、問題意識を持つことは不可能だからだ。今のところは、勉強会を開いたり、環境マネジメントシステムの授業の中で時間を頂いて、環境問題を学ぶ機会をつくらたりするくらいしか考えられていないが、まずは小さなことから実現していきたい。最後に、このような貴重で有意義な機会を与えてくださった関係者の方々、京葉銀行の皆様に感謝いたします。

CAS-Net JAPAN 2019 年次大会

八代慈瑛(法政経学部・3年)

1. 自身の役目と感想

環境マネジメント全国学生協議会(以下、学生協議会)の事務局長として第一部全体シンポジウムにおいて学生協議会の設立報告プレゼンテーションを行いました。また、会議に参加している学生と交流し学生協議会及び環境マネジメント全国学生大会(以下、学生大会)のことを周知・広報しました。

プレゼンテーションについてはおおむね予定通り問題なく行いましたが、事前配布したパンフレットに触れるのが最後になってしまったことなど改善点は今後につなげていきたいです。

また、他大学の学生団体に対する広報活動については、会議の空き時間・情報交換会の時間を利用して北海道大学生協同組合環境課題推進委員会、立命館大学サステナブルウィーク実行委員会、立命館大学 SDGs Impact Laboratory、名古屋大学環境サークル、岐阜大学環境サークルなどと交流を行いました。学生協議会加盟に積極的でなくても学生大会には大いに興味を示した団体が多かったので、まずは学生大会に参加してもらい、そこから学生協議会への加盟も検討してもらおうといったステップがより自然かもしれません。

2. 事例発表を聞いた感想

第二部の事例発表はセッション3(学生活動部門)を主に拝聴していたのでそれについて書きます。

まず、名古屋大学環境サークル・北海道大学生協同組合環境課題推進委員会の発表を聞いて、名古屋大さんの図書館前池清掃、リユース市、北大さんのレジ袋有料化などやはり各大学の環境系団体で実行する企画は似ていると感じました。他大の方から千葉大環境 ISO の企画発表はいつも参考にしてのうれしい言葉も聞けたので、第三部の全体討論で岡山助教もおっしゃっていたとおり、Cas Net のみならず学生協議会も各大学の良い企画を「横展開」させていくハブになっていくべきであると感じました。

また、立教大学サステナブルウィーク実行委員会の発表の中で「毎年個人がやりたいことを持ち寄り、柔軟に通すので VR を使った野菜なりきり体験など毎年ユニークな企画を次々実施できる」とのお話がありました。組織体系もかっちりしていて膨大な前例の蓄積があるあまり千葉大学環境 ISO 学生委員会ではユニークな企画が出にくくなってきている側面もあるのかなとも感じました。一方、ユニークな企画を安易に行うあまり企画の副作用を考え切れていない面も立教大さんの企画には見られました。そのような点にも留意していくべきであると感じました。

3. 大会に参加した感想

全体討論会にて、CAS Net JAPAN の役割について、「プラットフォーム」(小篠先生)「旗振り役」(岡山先生)とのお話がありました。また、学

生の立場について、「学生はユーザーでもあり企画提案者である。以前なら運営サイドがプランニングし学生に参加してもらっていたが、ユーザーが提案する方が、身近で具体性の富んだ提案ができる。学生が主体性を持つのが重要」(小篠先生)「参加というよりは参画」(岡山先生)といった意見も出されていました。

CAS Net JAPAN の学生版という立場の全国協議会の行く末を考えるにあたり、持続可能な社会構築に取り組む学生団体の“灯台”になり、企画を共有して改善していくプラットフォームたることが使命だと感じました。学生しか持ちえないその特有の立場を生かした活動を展開すべく、学校側や企業さんなどとの協力の深化を行っていきたくと思いました。

杉浦匡哉(工学部・2年)

1. 自身の役目と感想

歩車分離企画の担当者として、歩車分離企画についての発表をしてきました。企画発足までの経緯や実証実験に至るまでの流れ、実証実験の効果や実施したこと、それを踏まえた本格導入までの流れについて話しました。発表はやはり家で練習するものとは違ったため原稿を読む時間が長くなってしまったり、時間に合わせるため話すスピードが速くなってしまったりといつも通りにはいかなかった点は残念でした。ただ、建築設備部門のほかの発表と比べて、専門的な言葉が少なくわかりやすかったからか、質問が比較的多く来た気がしました。この点はたくさんの人に興味を持ってもらえたということと、理解してもらえたということだと思うので結果的にはいい発表ができたと思います。ペアの土屋君に関しても予定どおりしっかりと発表できていて横で聞いていてもわかりやすかったです。情報交換会では、他団体の人もたくさん話して交流できたのでとても有意義な時間を過ごすことができました。ただ、学生同士の会話が少なかったことで大人と話せる度胸を持てるようにしたいと思いました。

2. 事例発表を聞いた感想

初めに、ES022 会場から出ることに失敗したためとても難しい話聞いていました。その中でも特に印象に残ったのが ESCO と、空間の経験、共有化のお話でした。ESCO についてはあとで調べたところ顧客の省エネルギー目標に対して、サービス提供し浮いたお金の一部を受け取る事業のことでした。浜松医科大学では、熱源システムを変更したことで、三重大学では、熱回収のヒートポンプの導入や、既存設備の見直しなどで、省エネを進めていました。どちらも熱源についての見直しや改善を行っていることから熱源というのは無駄が多く省エネ効果が大きい分野だということがわかりました。実際に年単位で 5-10%、金額にすると億単位で削減効果が期待されている、環境にも大学にも優しい事業だと感じました。ただし、事業を始めてから時間がたつと施設の老朽化などの様々な問題が出てきてしまうようなのでその改善策を探していくことが必要だと思

いました。

空間の経験、共有化のお話では、三階建ての建物を貫く斜めの公演場や、異なる研究室同士の人が話し合う機会ができるような研究室の配置にしたり、とても斬新なアイデアでした。前者については千葉大学で図書館に似たような小さい公演場がありますが、三階分貫くと共有される空間が一気に大きくなるのでたくさんの人の交流の場になり共有されることが増えてとても良い効果が期待できると思いました。また、後者の研究室同士の交流が増えるようになるということもとても大切なことだと思いました。実際自分も工学部で勉強していますが、他学科の分野を知ることで、自分の分野をより深くすることができ、またつなげることで新しい効果が期待できるとよく言われます。この企画にはほかの人の交流が増えるということに反対の意声があったと聞きましたが、結果的には研究を深くする企画だったと思います。建物の形を変えることで研究を支えることができるというのは本当に驚きでした。

3.大会に出た感想

大会に参加して最初に思ったことは、千葉大学環境 ISO 以外にも環境について考え行動している学生団体はたくさんあるということです。今回の参加者のうちの 1/3 は大学生や大学院生だったと思います。自分たちと同じようなことをしている大学生はたくさんいるので、お互いに協力しつつも切磋琢磨していきたいと思えます。その点、今回の CASNET JAPAN はとてもいい経験になりました。基調講演でも、「SDGs は幅広いのでその中から自分たちの思うものをやるのが大切でそのための旗振り役が CasNetJapan だ」というお話がありました。まさに今回は自分がその経験をすることができたので、次につなげていきたいと思えました。情報交換会でたくさんの方と話すことができましたが、フードロスやレジ袋削減そして自分たちの行った歩車分離など環境と一口に言っても様々な形があるのだと感じました。それぞれに様々な思いがあって企画を進行していることを知ることができ、とても新鮮でした。もうすぐ自分も ISO の最上級生として 1, 2 年生を引っ張っていかないとけない立場になりますがそれぞれの人の思いを感じつつ、環境改善のために委員会を積極的に進めていきたいと思いました。

中島由貴(園芸学部・1 年)

1. 自身の役目と感想

私は、ISO 学生委員会が行なっている学生主体のエネルギーマネジメントシステムの運用について発表しました。発表は練習したおかげでスライドめくりもスムーズに出来た点が良かったと思います。しかし、私はゆっくり話しているつもりでしたが、結果的に練習時より早口になってしまい予定分数よりも短くなってしまったので、次回人前で発表するときは自分が思っている以上にゆっくり喋るよう心がけたいと思いました。また、質問に返

答するときに、文法がおかしくなってしまう上に伝えることが出来なかったので、今回は予想外の質問が来て落ち着いて答えられるように ISO 学生委員会についてもっと詳しくなるべきだと思いました。

2. 他大学の事例発表を聞いた感想

北海道大学は千葉大学と同様にレジ袋の有料化に取り組んでいたのですが、有料化の宣伝方法が千葉大学よりも多様でした。ポスターを留学生向けに複数言語で作成したり、POP をキャンパス内の食堂に設置したり、学生用ポータルサイトで企画の必要性を説明したりすることは千葉大学にも取り入れられると思うので、今後新しい取り組みを行う際に行なっていきたいです。

立命館大学は VR を使用して参加者が食べ物になり最終的に食べ残され廃棄されるという世界を体験することでフードロス問題について参加者自身に考えさせるという興味深い企画を行っていました。参加者自身が自由に環境問題について考えることができるという点と、最新の技術により参加者の興味を煽ることができるという点で非常に優れていると思えました。ISO 学生委員会が VR 等の先端技術を使用して企画をすることは難しいかもしれませんが、参加者の興味を引く企画をつくることをもっと重要視しても良いのではないかと思います。

3. 大会に参加した感想

今回、様々な団体の発表や全体討論、参加者との交流を通じて、もっと自分なりの考えを持つべきだと思いました。特に質疑応答の際に出てくる質問が、自分なりの考えを持っているから生まれてくるものや、自分達の活動にプロセスを持って取り組んでいるから生じるものばかりで、疑問はそうやって見つけるのかと考えさせられました。私たち ISO 学生委員会の一年生は、“先輩方がこうして欲しいと言ったから動く”という甘い考えを持たずに、なぜその活動が必要なのか、自分達の学年がリーダーになったらどこを改善して活動するべきかを一人一人がよく考えるべきだと思いました。他大学の活動や学生との交流を通じて主体性を持つことが欠けていると強く思ったので学生委員会の特に一年生内でその点を共有していきます。

土屋健太(法政経学部・1 年)

1. 自身の役目と感想

千葉大学環境 ISO 学生委員会の代表として、歩車分離実証実験についてのプレゼンテーションを行いました。私は、歩車分離実証実験までの経緯と事前準備について説明しました。

プレゼンテーションでは、途中で詰まることなく発表することができました。練習の成果が出たと思います。聞き手のほとんどは大学教授や建築の専門家などの大人の方でしたが、臆せずに発表することができました。八代さんから「聞き手のほうにちゃんと目線を配っていてよかった」との言葉をいただきました。また、はっきりと発声できたのも良かったです。スライドの完成度も、他団体と差をつけていたと思います。スライド内の字の

量や、スライドの枚数は一番適切でした。

しかし、時間を使いすぎてしまったことは反省すべきだと思います。話す時間を圧迫してしまい、杉浦さんを緊張させてしまったと思います。実際に、12分以内に発表を終えることができず、30秒ほど超過してしまいました。ですが、他の団体の発表は2分ほど超過しているものが多く、仕方のないこととも思います。また、発表後に落ち着いて他大学の発表を見てみると、スライドに対して視線を向けたり、注目すべきところに指を指したりしていることに気づきました。私は聞き手のほうを見ることばかりに注意し、せつかくのスライドをただ表示するだけで終わらせてしまいました。もう少しスライドを活用できたら、よりわかりやすい発表になったと思います。

2. 他大学の事例発表を聞いた感想

第二部の事例発表では、セッション1(建築・設備部門大学運営・地域連携部門)の発表を拝聴しました。前述の通り、この部門の参加者は大学教授や建築の専門家などが多く、話の内容も高度であったため、少し理解するのにこずりました。また、建物の工事を伴う大規模なものが多く、千葉大学内に取り入れるのは難しいと感じました。

はじめに、名古屋大学さんの「大学研究施設における入居者による“空間の経験・共有化”のとりくみ」についての発表を拝聴しました。複数回にまたがる吹き抜け状態の階段は開放的で、空気も循環する素晴らしい仕組みだと思いました。また、その階段でゼミを行うというのも思い切った発想だと思いました。ゼミを行っている最中にもその周りを学生が通り、時には他ゼミの学生が「その考えは違うと思う。うちのゼミでは…」と介入してくることもあるようです。階段を工事するのは難しいが、開放的なゼミというのは千葉大学にも取り入れられる面白い試みだと思います。

続いて、浜松医科大学さんの「10年経過したESCO事業の効果と今後の課題」、三重大学さんの「三重大学上浜キャンパスESCO事情」についての発表を拝聴しました。ESCO事業を知らなかったため理解が難しかったです。ESCO事業について調べるきっかけとなりました。

最後に、大阪大学さんの「箕面新キャンパス移転計画(建設中)における地域との共同プロセス」についての発表を拝聴しました。地域と協力していく姿勢は、千葉大学と共通するものがあると思いました。しかし、地域内の空き倉庫やテナントなどを大学の教室やサークル室などに利用するというのは大胆な発想だと思いました。大学を中心に地域を活性化するというより、地域そのものと一体化するというイメージでした。他の大学の取り組みを見て、柔軟な考え方が身についたと思います。

3. 大会に参加した感想

名古屋大学の中に、二酸化炭素排出量についてのモニターがあるのが面白かった。現在の各学部棟の二酸化炭素排出量、日時・月次累

計グラフがあった。モニターとして目につきやすいところに表示されていれば、二酸化炭素排出量を削減するよう心がけるようになると思います。排出量が視覚的にわかりやすいと言うこともよい点です。

情報交換会では、岐阜大学や北海道大学など、様々な大学の学生と話すことができました。交流は深まりましたが、各大学で行っている活動についてあまり触れられなかったのは反省すべき点です。しかし、他の大学では少人数で活動したり、学生のみで活動したりしているため、活動内容が限られてしまうことはわかりました。大学の組織の一部であるという点と、150人以上の規模である点は、千葉大学環境ISO学生委員会の大きな長所であるため、その点を生かした活動が行えるように尽力したいです。

武村有紗(園芸学部・1年)

1. 自身の役目と感想

私は、千葉大学で今年7月に行ったプラスチックストロー削減プロジェクトの実証実験について発表をしました。目的、結果、成果、課題をパワーポイントを使って行いました。

今回台本があったのでそれに沿って発表をすることができたので比較的深く考えずにできたのですが、岐阜大学の学生の発表では何も見ないで発表していたかつ話が上手であったので私も頭の中で何を伝えるか構造を組み立てて発表できるようになりたいと思いました。また、質問に対してどのように回答をしたらよいのかわからないことばかりだったのもっとISO学生委員会について知りたいと感じました。

2. 他大学の事例発表を聞いた感想

名古屋大学の発表でベンチを清掃する活動がありました。千葉大学にもライセンの近くにベンチが置かれていますが、あまりきれいではなく座るのに少し抵抗を感じます。名古屋大学は数人で行ったそうなので200人近くいるISO学生委員会なら実践可能であると考えました。

3. 大会に参加した感想

全体討論において今後CAS-Netがどうあるべきかについて話し合われていました。どの教員の方々もCAS-Netをさらに盛り上げていきたいという考えをお持ちであることがわかりました。しかしながら、そのあとの情報交換会で教職員と学生が分かれてしまっていたこと(私から話しかけに行けばよかったのですが…)がみられ教職員と学生のネットワークがあまり強くないと感じました。だから、CAS-Netが今後発展していくためには教職員と学生のつながりを大切にしたいと思いました。最後に、京葉銀行の方々のおかげで5名の学生が年次大会に参加することができ、有意義な経験を積むことができました。ありがとうございました。